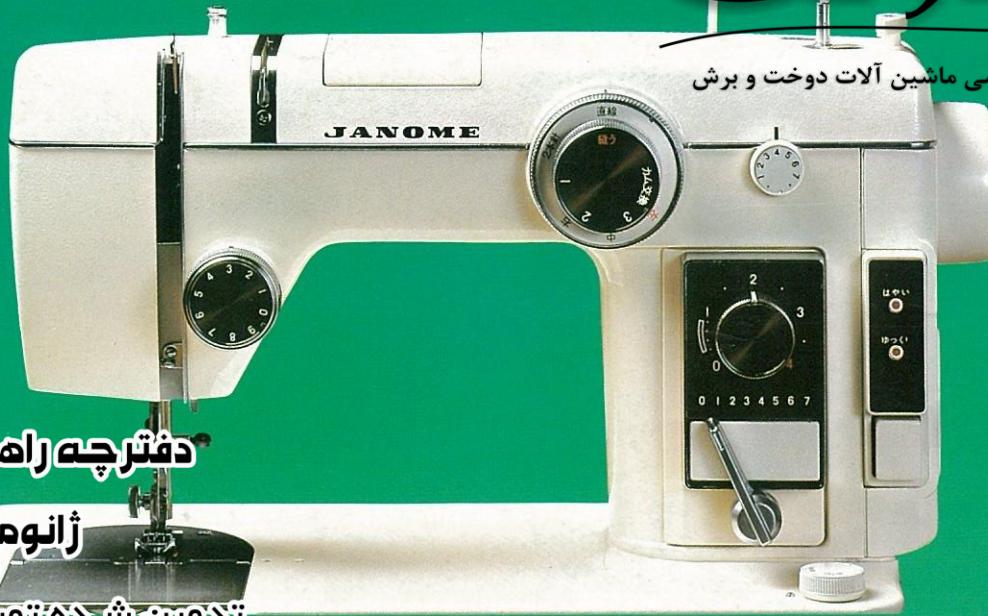


805型<使い方の手びき>

گلدوخت



آموزش، نقد و بررسی ماشین آلات دوخت و برش



دفترچه راهنمای چرخ خیاطی

ژانومه مدل 805

تدوین شده توسط گروه گلدوخت جهت

تسهیل استفاده برای مخطبان عزیز

تصورت

ジャノメトピア レース
電子



www.golldookht.com



#golldookht



@golldookht

洋裁上手になりましょう。

ジグザグ教室



正しいミシンの使い方はソーイングの基本。かわいい作品づくりを楽しみながら、ジグザグミシンの使い方を覚えましょう。
フラワーステッチ、アルファベットステッチなど、手作りの楽しきがいっぱいです。

ホームソーイング教室



パターン洋裁の基礎から応用までが、簡単に覚えられる教室です。小人数のグループレッスンですから、和気あいあい。スカートやワンピースをつくりながら、パターン洋裁をマスターしましょう。

●ホームソーイング教室、ジグザグ教室についてくわしくは、ジャノメミシン直営支店へお問い合わせください。

●ごあいさつ

ジャノメミシンをお買いあげくださいまして、ありがとうございます
た。

この《使い方の手びき》をごらんになって、あなたのミシンをお役立て
ください。

また当社では《ジグザグ教室》《ホームソーイング教室》を全国の直
営支店で開講していますので、ぜひご参加ください。

●ジャノメトピア電子レーヌの特長

★縫いの速さが電子の働きで高速から低速まで、縫う力を落さず、自
在に確実に調節できます。

★縫いはじめ、縫いおわりの針上げが、ボタンを押すだけでスピーデ
ィーにできます。

★かまが開閉式で手入れが容易にできます。

★基線ダイヤルを「直線」にするだけで、針穴も機構も直線縫い専用
にセットされ、縫いの乱れが防げます。

★速度表示ランプが光って、スライド式電子制御スイッチの選択位置
がわかります。

★振巾制限ボタンを押すと、振巾の固定、解放ができます。

★7ミリの振巾の美しい自動模様ができます。

★ユニダイヤルをまわすと、模様が伸び縮みし、さらに縫い目の目づ
まりを補正できます。

●目 次

1. あらましと準備

- 各部の名称 2 ~ 3
- ご使用の前に 3
- 頭部のつけ方と電源のつなぎ方 4
- スライドスイッチ 5
- コントローラーの踏み方 5
- 照明ランプのはずし方・つけ方 5
- 早見板の活用 6
- 押えの種類 7
- 模様カムの種類と用途 8 ~ 9
- 模様カムのはずし方・つけ方 10
- 基線ダイヤル 11
- 送りダイヤル 11
- 振巾レバーと振巾制限ボタン 11
- 押え上げ 12
- 押えと押えホルダーの
はすし方・つけ方 12 ~ 13
- ユニダイヤル 14
- 針上げボタン 14
- 糸調子ダイヤル 14
- ドロップつまみ 14
- 布と糸と針の関係 15
- 下糸の巻き方 16
- ボビンケースとボビンの
はすし方・つけ方 17
- 上糸の掛け方 18
- 下糸の引きあげ方 19
- 糸調子の出し方 19

2. 基本縫い

- 直線縫い 20 ~ 21
- ジグザグ縫い 22

3. 実用縫い

- 裁ち目かがり 23 ~ 24
- ストレッチ(伸縮)縫い 25
- 三重縫い 25
- ボタン穴かがり
(ボタンホール) 26

●芯入りボタン穴かがり 27

- くけ縫い(まつり縫い) 28 ~ 29

●ファスナーつけ 30 ~ 32

- 三つ巻き縫い 33

●ボタンつけ 34

- しつけ 35 ~ 37

4. 装飾縫い

- 自動模様縫い 38

●2本針縫い 39

- ピンタック 40

●スカラップ 41

- キルティング 42

●スマッキング 42

- アップリケ 43

●ギャザー寄せ 43

- パッチワーク(はぎ合わせ) 44

●レースつけ 44

- ファゴティング 45

●カットワーク 45

- コーディング 46

●広巾コーディング 47

- シェルタック 47

●ドロンワーク 48

- フリンジ縫い 48

●糸を使ったフリンジ 49

- ししゅう 50

5. 手入れと調整

- 外装の手入れ 51

●送り歯の掃除 51

- 注油のし方 52

●かまの手入れ 53

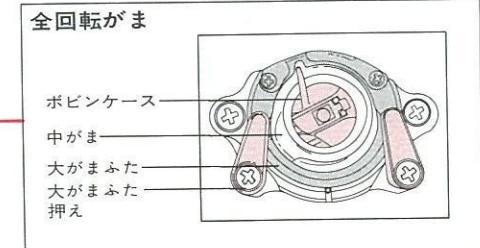
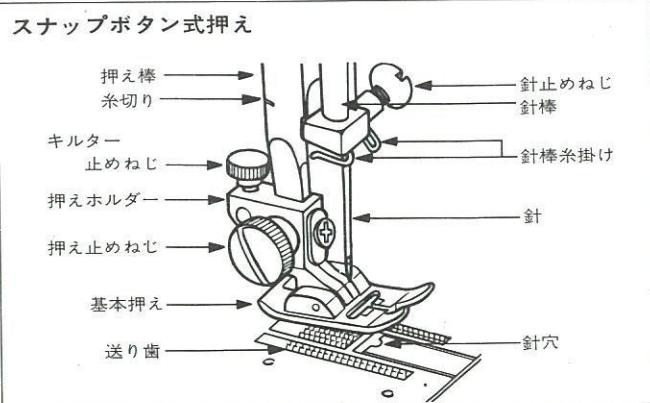
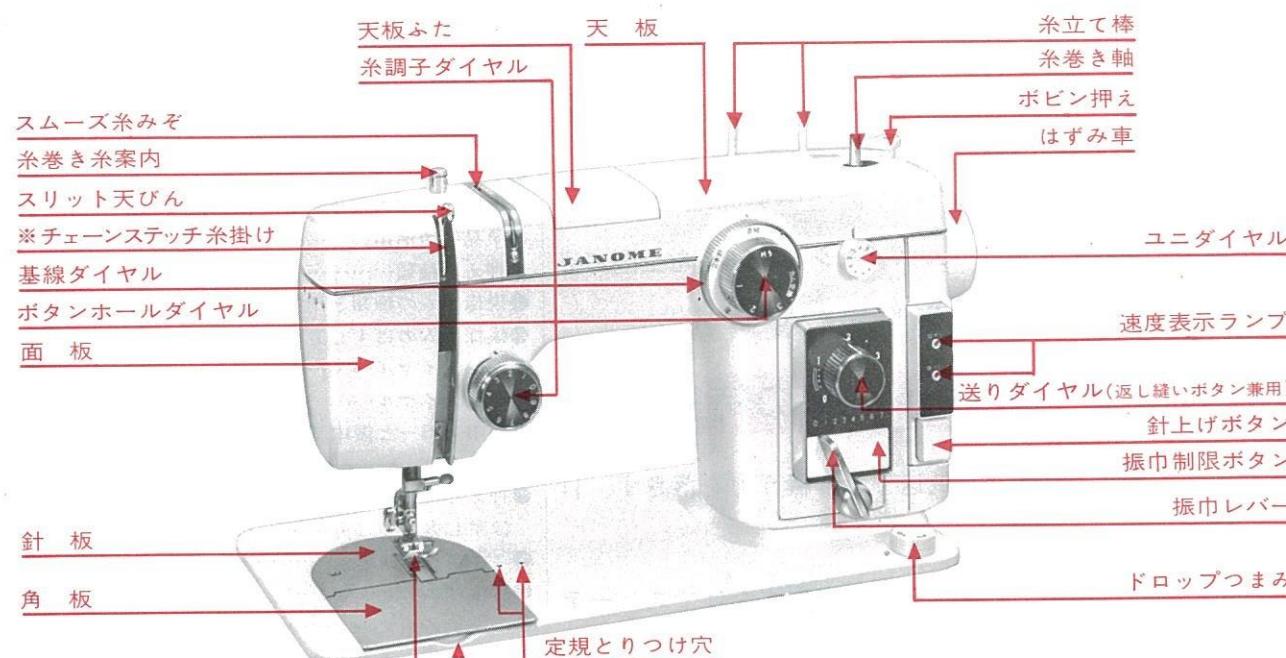
- ミシンの調子の
悪いときの直し方 54

●スペシャルカムの 応用縫い=姉妹品(別売) 55

- 標準付属品 56

- 姉妹品(別売) 56 1

●各部の名称



※チェーンステッチ糸掛けは、別売りのチェーンルーパー、チェーンステッチ押さえと一緒に使用してください。

●ご使用の前に

★よくふきましょう………

ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

★ミシンのセットは確実に………

ダイヤルやレバーをセットしたり、押えや針を交換するときは、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

★試し縫いをしてみましょう………

ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★より安全のために………

このミシンは、特に安全性に留意して作られています。思わぬ事故や故障を防ぐためにも、つぎの点は特に注意してください。

①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

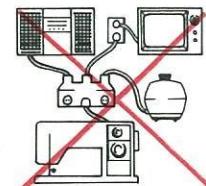
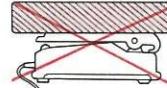
②つぎのようなときは、電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

■ 使用後 ■ ミシンのそばをはなれるとき

■ 部品をつけたり、はずしたりするとき ■ ミシンの手入れをするとき

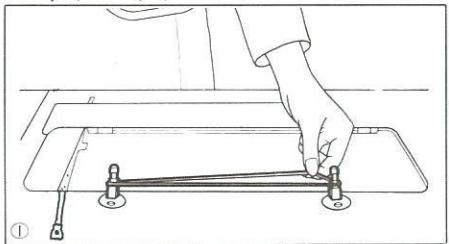
③コントローラーの上には、物
をのせないでください。

④たこ足配線は、危険ですから
やめましょう。

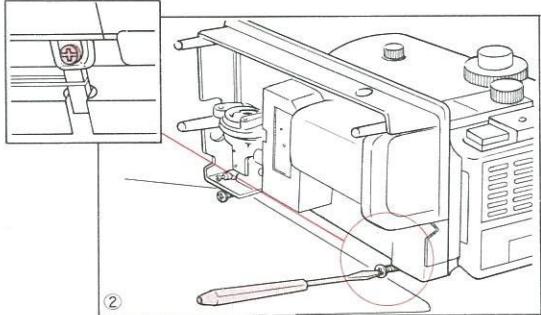


● 頭部のつけ方と電源のつなぎ方

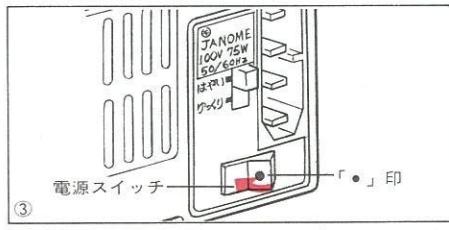
★ キャビネット型のとき



① テーブルの天板をひらきヒンジを立て、倒れないようにゴム輪をかける。

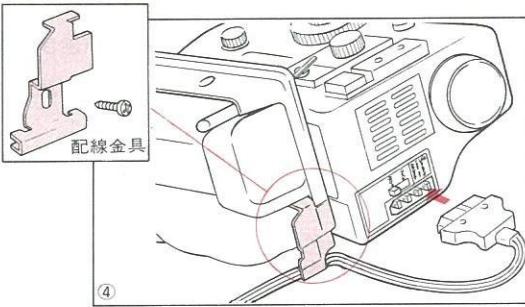


② ヒンジ止めねじをゆるめ、ヒンジをヒンジ穴にさしこみ、止めねじをしっかりとしめる。

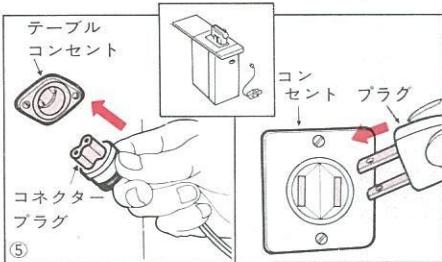


③ ミシンの電源スイッチの「・」印のない方を押してスイッチを切る。

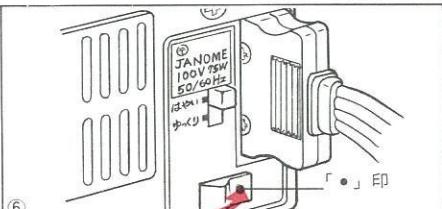
*配線金具でコードを固定するとき、金具にコードがはさまったままねじをしめると、コードが傷つき大変危険ですから充分注意してください。



④ プラグを頭部のプラグ受けにつなぐ。
配線金具止めねじをゆるめ、配線金具をはずす。コードをそろえてベッドのコードみぞに入れ配線金具で押え止めねじをしっかりとしめてから頭部をおこす。

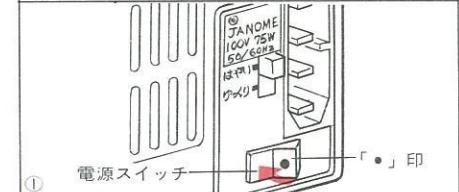


⑤ コネクタープラグをテーブルコンセントに電源プラグをコンセントにつなぐ。

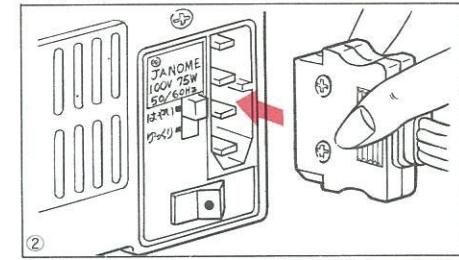


⑥ ミシンの電源スイッチの「・」印のついた方を押してスイッチを入れる。

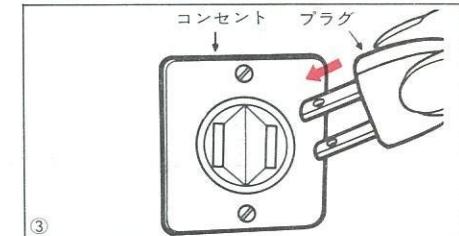
★ キャビネット型以外のとき



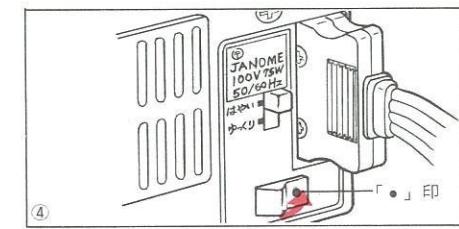
① ミシンの電源スイッチの「・」印のない方を押してスイッチを切る。



② プラグをミシンのプラグ受けにつなぐ。

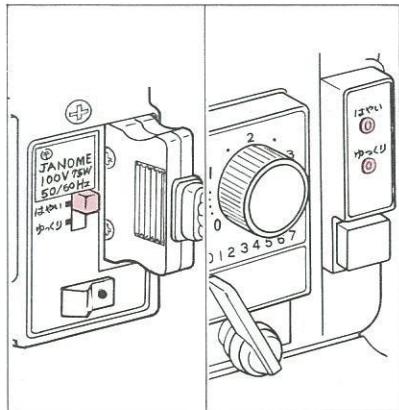


③ 電源プラグを、コンセントにつなぐ。



④ ミシンの電源スイッチの「・」印のついた方を押してスイッチを入れる。

●スライドスイッチ

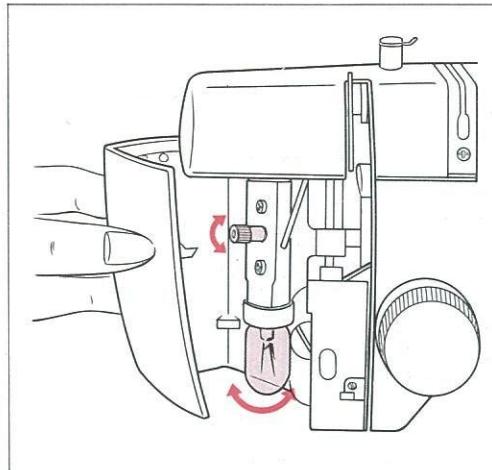


「はやい」 速く縫うとき
「ゆっくり」 ゆっくり縫うとき

スライドスイッチを合わせると速度表示ランプがつく。

※ミシンが動いているときは、スイッチの切りかえをしないでください。

●照明ランプのはずし方・つけ方

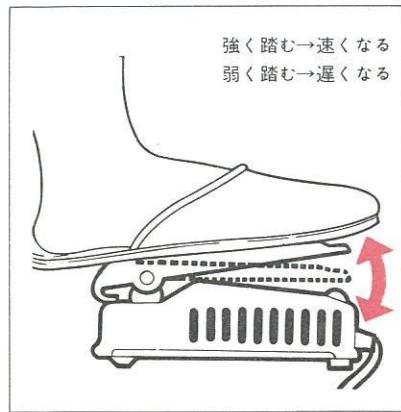


照明ランプは、面板をひらいてスイッチつまみをまわし、点滅する。

電球のつけ・はずしは、面板をひらいて行なう。

はずすとき.....左へまわす
つけるとき.....右へまわす

●コントローラーの踏み方



強く踏む→速くなる
弱く踏む→遅くなる

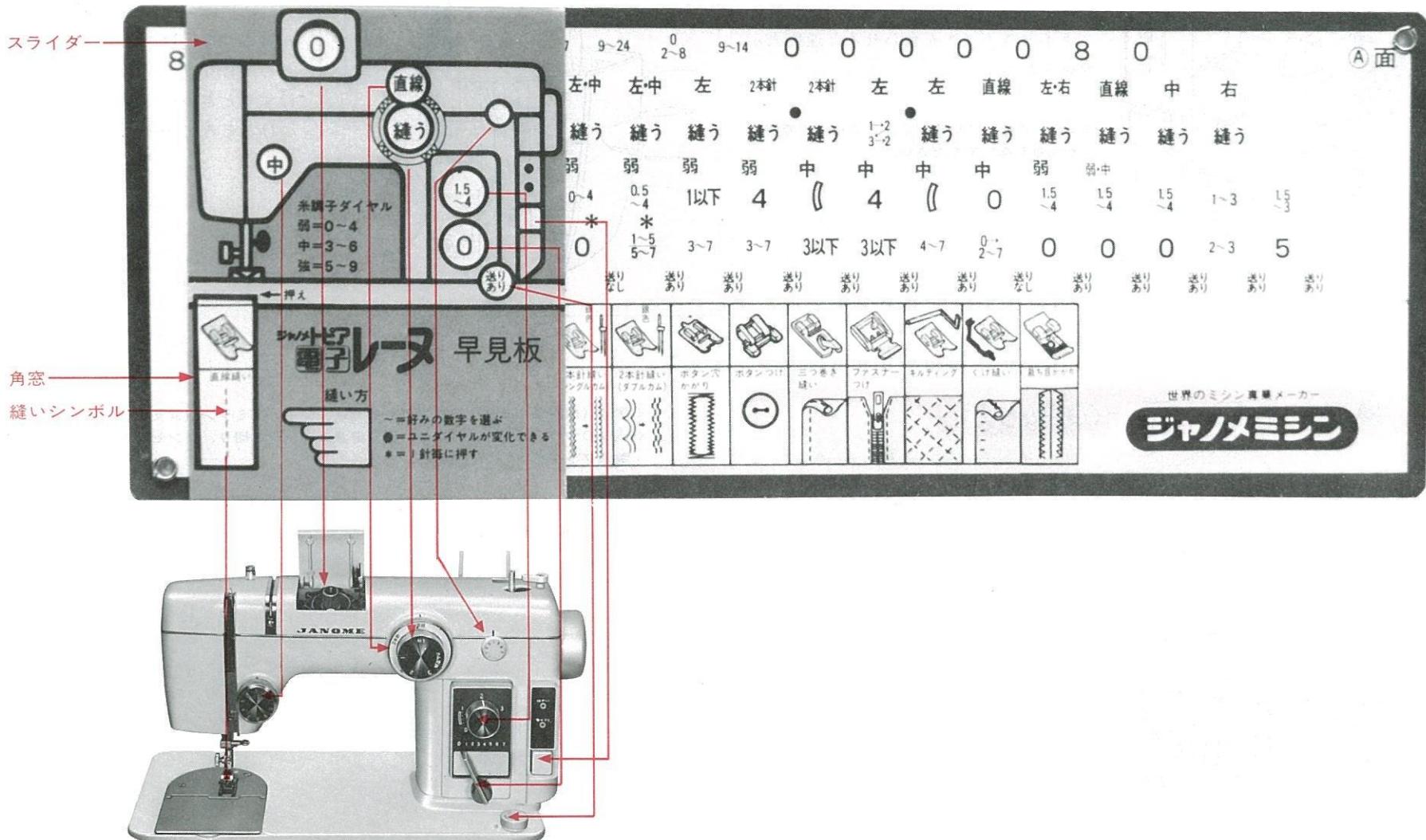
静かに足をかけ、踏み板を踏む。
コントローラーの踏みかげんで速さを調節する。

※電球（照明用 100 V - 12W）のお求めは、ジャノメミシン直営支店へ。

※電球のつけ・はずしのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

●早見板の活用

早見板のスライダーを動かし、角窓に縫いたい模様を合わせると、カムの種類やダイヤルのセットのし方が丸窓に表示されます。この表示に従ってミシンの各部をセットします。



●押えの種類

A 基本押え



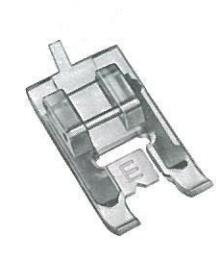
I ふちかがり押え



H ファスナー押え



E ボタンホール押え



F 三つ巻き押え



B アップリケ押え



D ボタンつけ押え



C ひもつけ押え



J しつけ押え



定規



くけ縫いガイド



キルター(棒定規)



※基本押えはミシンにつけてあります。

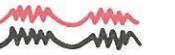
※押えのはずし方、つけ方は12~13ページ(しつけ押えは35ページ)にあります。

●模様カムの種類と用途

基本カム

直線縫い ジグザグ縫い 裁ち目かがり ボタン穴かがり(ボタンホール) 芯入りボタン穴かがり ファスナーツ 三つ巻き縫い ボタンつけ しつけ 切りじつけ 2本針縫い ピントック キルティング スマッキング アップリケ ギャザーよせ カットワーク コーディング フリンジ縫い ししゅう

※ふだんは基本カム0をセットしておきます。

シングルカム	1		2		3		4		ダブルカム	9	
一本針									一本針		
二本針								二本針			
用途		ジグザグ広巾縫い コーディング		自動模様縫い 二本針縫い		自動模様縫い 二本針縫い		自動模様縫い 二本針縫い コーディング	ユニダイヤル	1~3	
シングルカム	5		6		7		8		ダブルカム	17	
一本針									一本針		
二本針									二本針		
用途		自動模様縫い 二本針縫い		自動模様縫い 二本針縫い		自動模様縫い 二本針縫い		二本針縫い くけ縫い シェルタック	ユニダイヤル	1~3	
									5~7		
									用		自動模様縫い かがり縫いステッチ
									途		

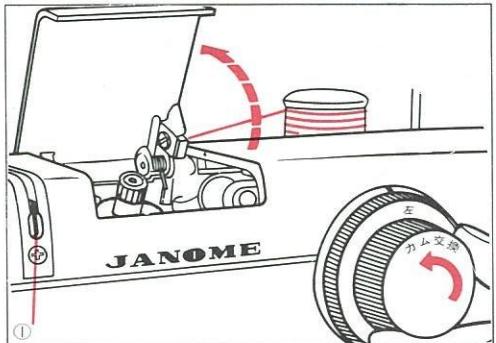
※シングルカム①~⑧はユニダイヤルによる変化はできません。

10	11	12	13	14	15	16
自動模様縫い 二本針縫い スモッキング レースつけ パッチワーク	自動模様縫い 二本針縫い スモッキング レースつけ	自動模様縫い 二本針縫い スモッキング ファゴティング レースつけ・パッチワーク	自動模様縫い・二本針縫い 三重縫い・ドロンワーク・ フリンジ縫い・コーディング・ スモッキング・ファゴティン グ・レースつけ・パッチワーク・ フリンジ縫い	自動模様縫い 二本針縫い スモッキング ファゴティング レースつけ・パッチワーク	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い ストレッチ(伸縮)縫い アップリケ
18	19	20	21	22	23	24
自動模様縫い ファゴティング レースつけ	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い レースつけ	自動模様縫い レースつけ

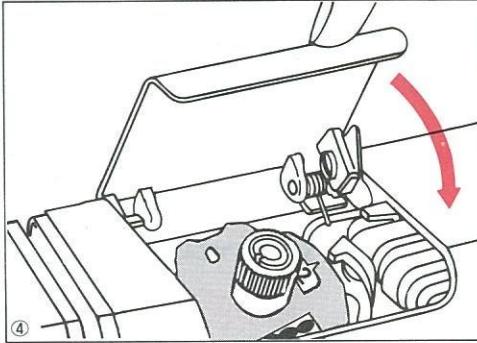
※ カム①, ⑯~㉔は二本針縫いはできません。

●模様カムのはずし方・つけ方

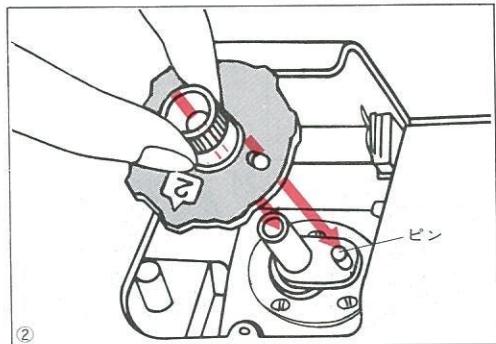
ボタンホールダイヤルは、ボタン穴かがりやカムの交換のとき以外は、必ず「縫う」にセットします。



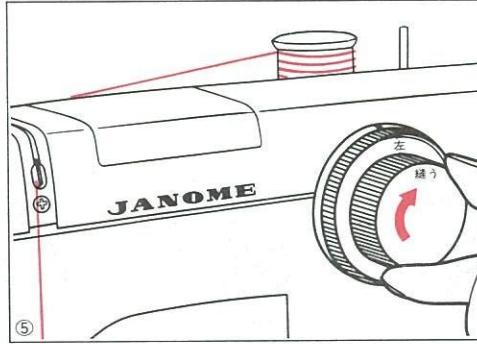
①ボタンホールダイヤルを左いっ
ぱいまでまわし、「カム交換」
に合わせると、天板ふたがひら
く。



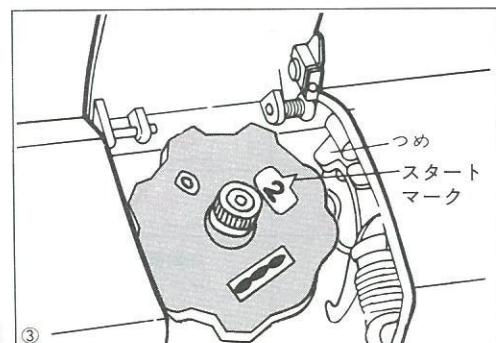
④天板ふたを指で押してとじる。



②セットされているカムをはずし、
使用するカムの穴と軸のピンを
合わせてきちんと入れる。



⑤ボタンホールダイヤルを、必ず
「縫う」に戻す。

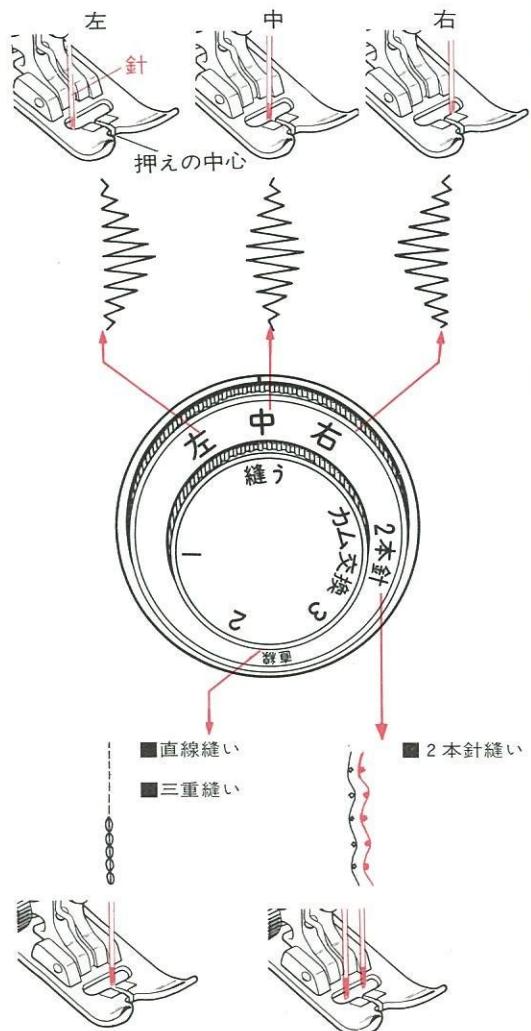


③模様のはじめから縫うときは、
はずみ車を手前にまわして、ス
タートマークをつめの先端に合
わせる。

※ボタン穴かがりのときのダイヤルの使い方は、26ページにあります。

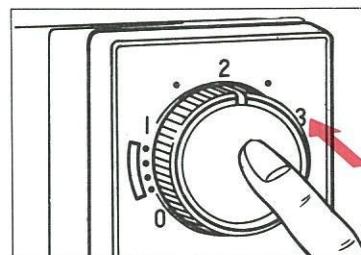
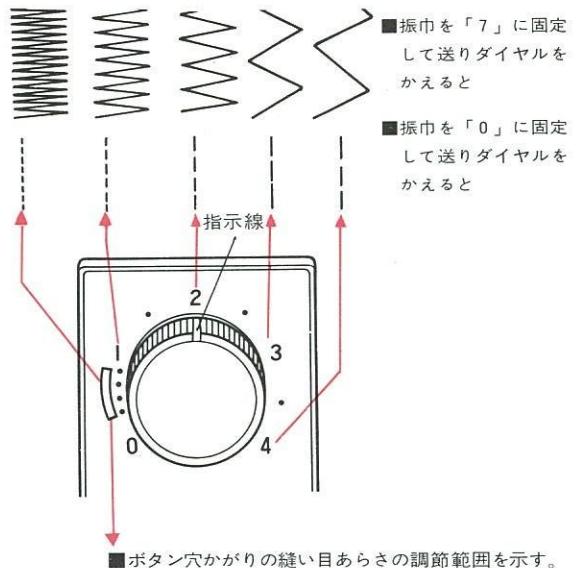
●基線ダイヤル

基線ダイヤルをまわし、指示線に文字を合わせて針位置を選びます。



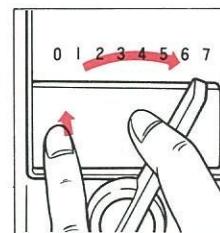
●送りダイヤル

送りダイヤルをまわし、指示線を「0」～「4」の数字に合わせて、縫い目のあらさを選びます。



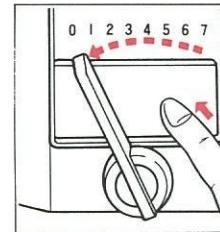
※送りダイヤルや振巾レバーをセットする目盛は、ほぼミリメートル単位に合わせてあります。

振巾レバーを目盛に合わせて、ジグザグ縫いの縫い目の巾を選びます。



《セットのし方》

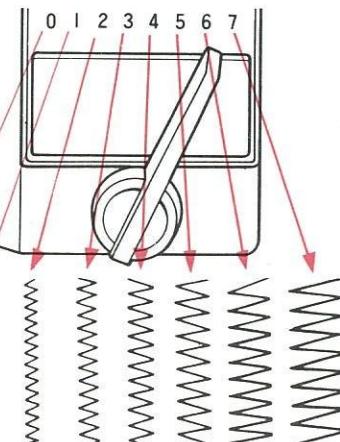
振巾レバーを「0」～「7」の目盛に合わせ、振巾制限ボタンを押して振巾を固定する。



《振巾レバーの戻し方》

振巾制限ボタンを押すと「0」に戻る。

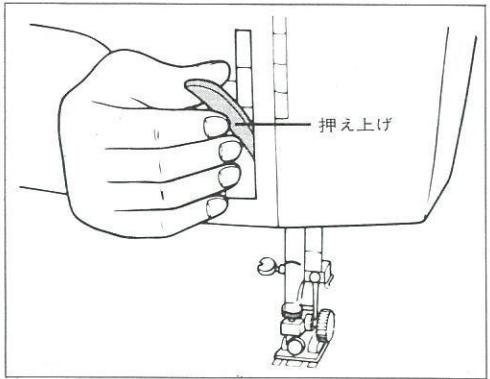
※振巾レバーは、振巾制限ボタンを押さずに動かすと手をはなしたとき、もとのセットの位置に戻ります。



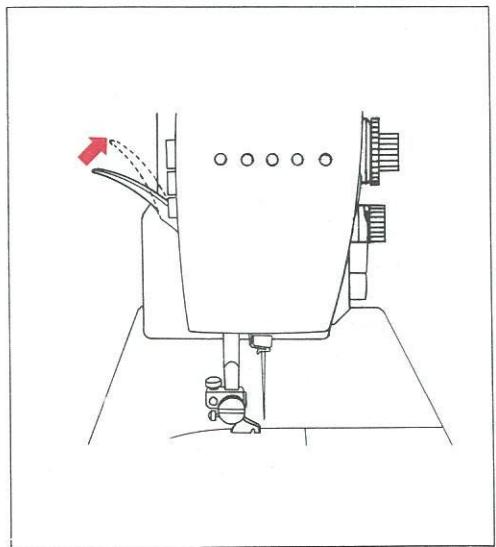
■送りを「1」に固定して振巾レバーをかえると

●押え上げ

押え上げをあげさげして、押えをあげたりさげたりします。

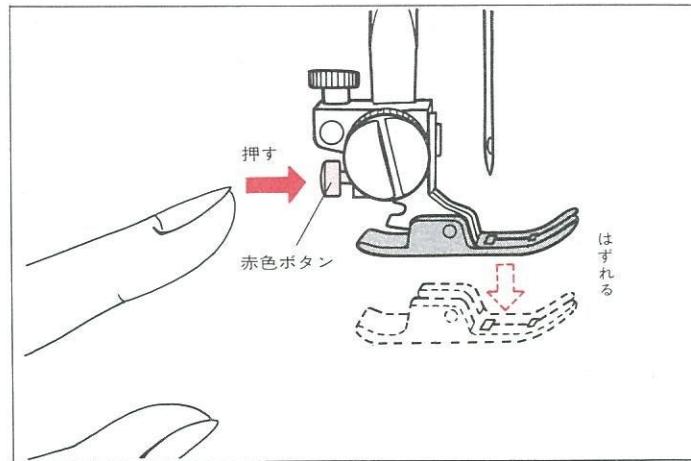


押え上げをあげた位置より、さらに高くあげると、押えの位置がさらにあがる。
 ししゅう枠を入れるときなどに使う。



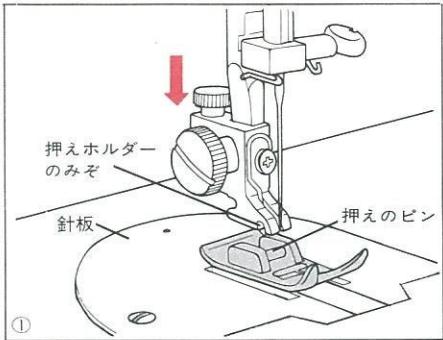
押えと押えホルダーは、縫いの種類によって交換します。

《押えのはずし方》



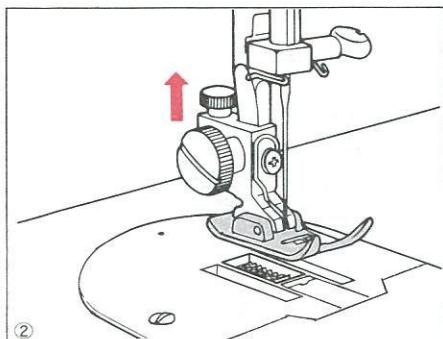
電源スイッチを切り、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずす。

※押えを無理に引いて、はずさないでください。



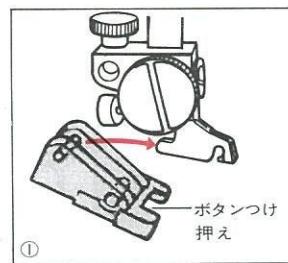
《押えのつけ方》

①ドロップつまみを「送りなし」に合わせ、押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において静かに押え上げをおろす。

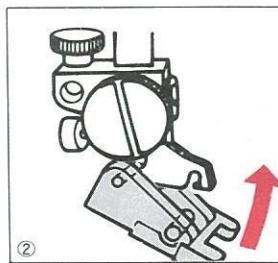


②ピンがみぞに入ったのを確かめて、押え上げをあげる。

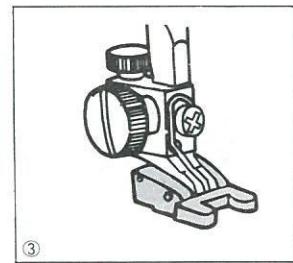
《ボタンつけ抑え・アップリケ押えのつけ方》



①押えを図のように傾け、押えの後方のピンを押えホルダーのみぞに入れる。



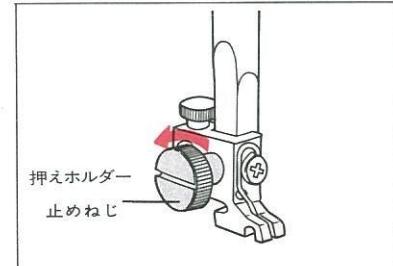
②押えの前側を押しあげる。



③ボタンつけ押えがついた状態。

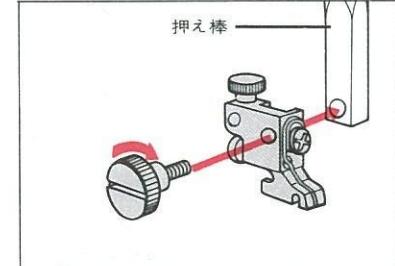
※アップリケ押えも同じ方法でつけます。

《押えホルダーのはずし方》



押えホルダー止めねじを、ねじまわしで左にまわします。

《押えホルダーのつけ方》



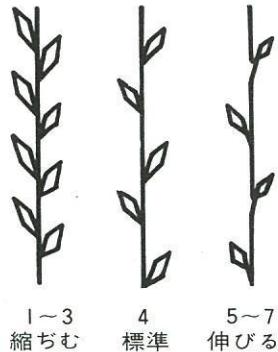
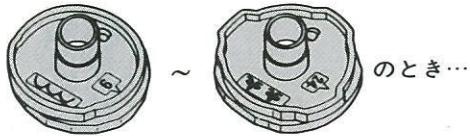
押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわしで右にまわしてしっかりとつける。

●ユニダイヤル

●針上げボタン

●糸調子ダイヤル

ダブルカム⑨～⑩の場合、ユニダイヤルをまわして、模様の伸び縮みの調整と縫い目の目つまりの補正をします。



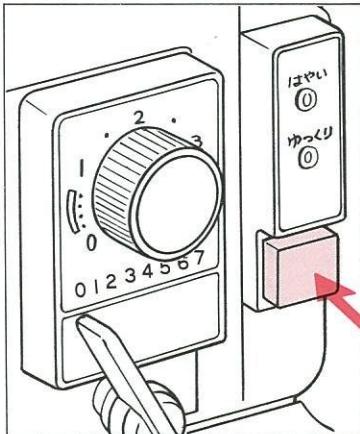
1~3 縮ぢむ
4 標準
5~7 伸びる



指示線

針上げボタンを押すと、針と天びんがあがって止まります。

しつけのときは、この針上げボタンを使って一針一針缝います。



※針上げボタンはミシンが動いているとき、押さないでください。

※針が最上部にあるとき、ボタンを押しても、動かないことがあります。

糸調子ダイヤルをまわして、縫いに適した上糸調子を選択します。

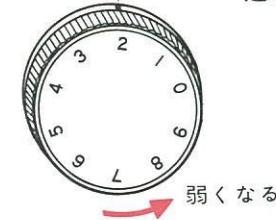
ダイヤルの目盛は数字の小さい方が弱い。

選ぶ目安は

弱……0~4

中……3~6

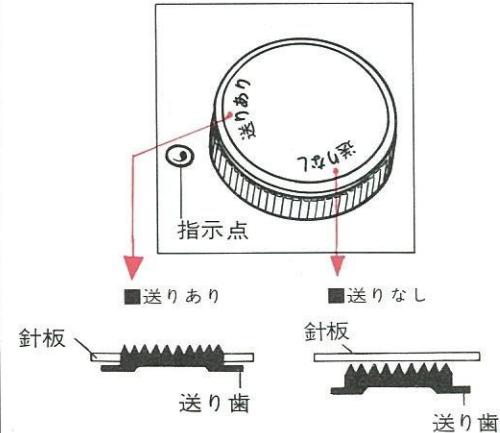
強……5~9



※下糸調子の出し方は19ページにあります。

●ドロップつまみ

つまみをまわし送り歯をあげさげします。



● 布と糸と針の関係

布と糸と針の関係は下の表を目安に選びます。

	布	糸	針
薄物	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガンジー、ジョーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化織糸)	9番 または 11番
普通物	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番~80番 (化織糸50番~60番)	11番 または 14番
厚物	デニム、ツィード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番~50番 (化織糸40番~50番)	14番 または 16番

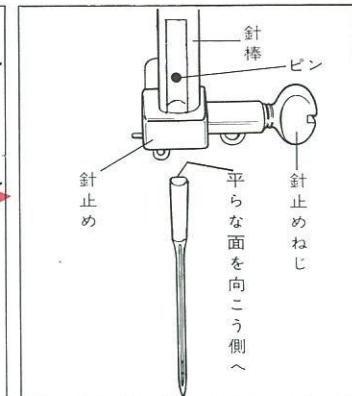
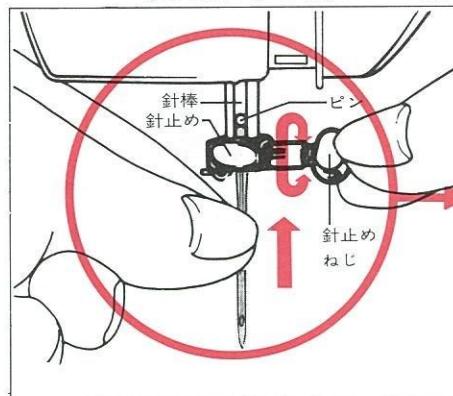
※ここに示す布と糸と針の関係は、標準の組み合わせです。一般に薄物縫いは細い糸と細い針を、厚物縫いは太い糸と太い針を使用します。試し縫いをして確かめてください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)は、ジャノメ化織針(紫色)を使用すると目とびを防ぐのに効果があります。また基本押えで目とびする場合は、化織押え(別売)を使用すると効果があります。

※しつけ、切りじつけをするときは、ジャノメミシン直営支店で販売しているミシン専用「しつけ糸」を使用してください。

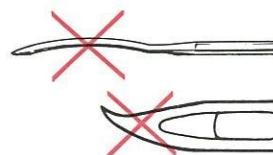
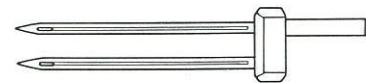
※ごく薄い布は、下に紙を敷いて縫ってください。

《針のはずし方、つけ方》



- ①針をあげ、電源スイッチを切る。
- ②針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずす。
- ③針の柄の平らな面を向こう側に向けて針止めにさしこむ。
- ④奥いっぱいにピンにあたるまで入れ、針止めねじをかたくしめる。

《針の選び方》



■針の太さを示す番号は柄に表示されており、数字が大きくなれば太くなる。

■化織針は柄の部分が紫色をしている。

■2本針は針と針の間かくによつて2種類ある。

銀色……一般用

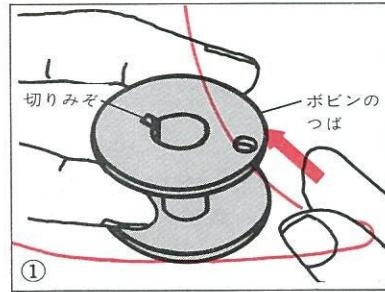
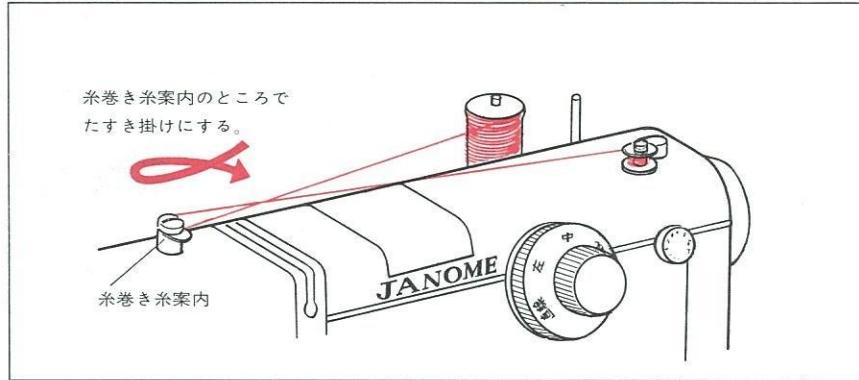
緑色……ピンタック(せまい)

※ジャノメ独特の2本針や化織針を使用してください。

※全体がまがってしまったものや、針先がつぶれたりまがつたりしたものは、使用しないでください。

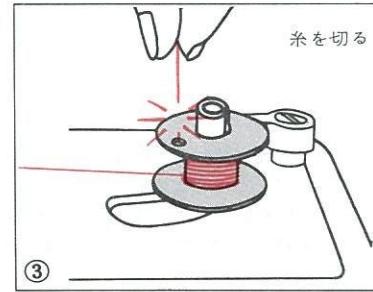
●下糸の巻き方

《下糸を巻くときの糸の掛け方》

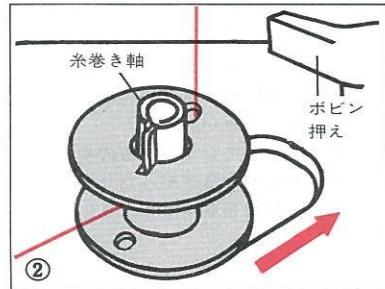


《巻き方》

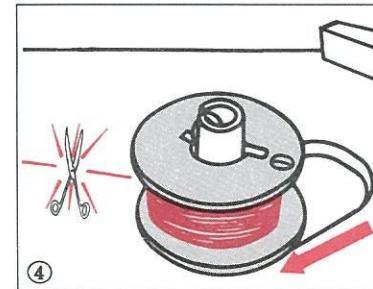
①糸の先をボビンのつばの穴に内側から通す。



③糸の端を指でつまんだままコントローラーを踏む。ボビンに糸が3重くらい巻きついたら、穴のきわで糸を切る。



②ボビンを糸巻き軸にさしこんで、ボビン抑えの方に押す。

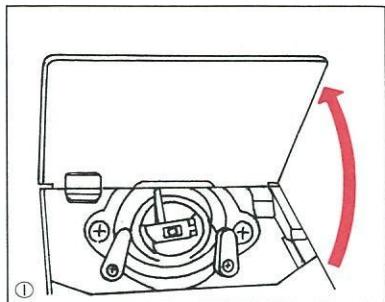


④巻きおわったら、ボビンは自動的に止まる。ボビンを戻して、糸を切る。

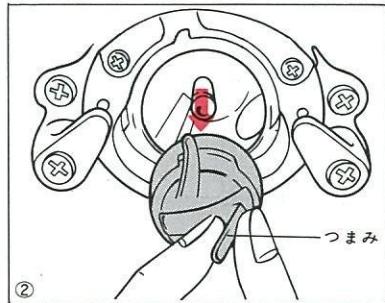
●ボビンケースとボビンのはずし方・つけ方

《はずし方》

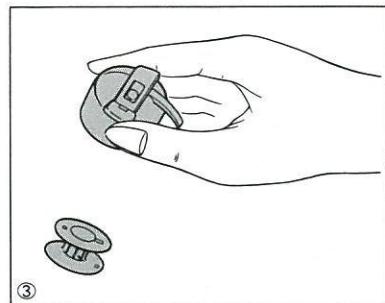
- 針上げボタンを押し針をあげ、電源スイッチを切り角板をあける。



- ボビンケースのつまみをいっぱいにおこしてとり出す。



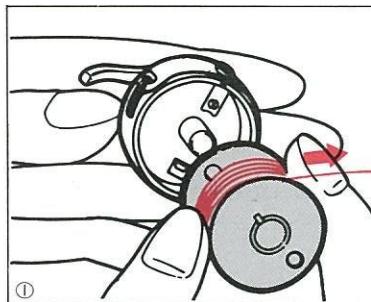
- ボビンケースのつまみを倒し、中のボビンをとり出す。



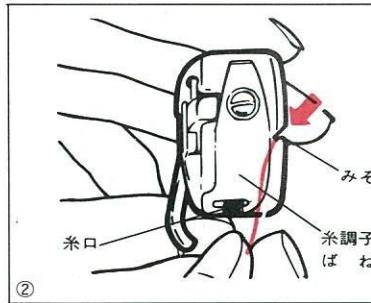
《つけ方》

- ボビンに巻いた糸の端を必ず矢印の方向にして、ボビンケースに入れる

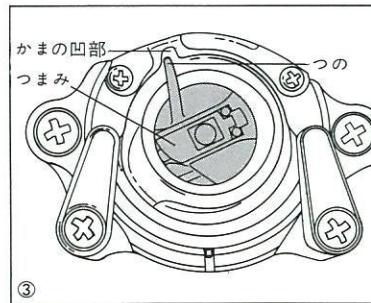
※つまみをおこしたままでボビンを入れると、きちんとボビンケースにおさまりません。



- 糸の端をつまんで、ボビンケースのみぞに糸を通して引き、糸調子ばねの下にくぐらせて、糸口から10cmほど引き出す。

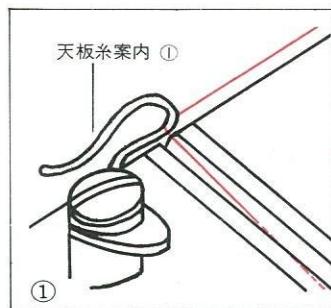


- つまみをいっぱいにおこし、つのをかまの凹部に合わせ、奥いっぱいに入れてからつまみをはなす。



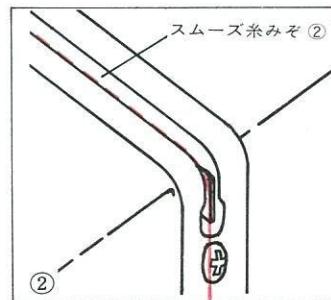
※中がまにボビンケースがきちんと入っていないと、ミシンを動かしている途中で、はぜれたり、針が折れたりする原因となります。

●上糸の掛け方

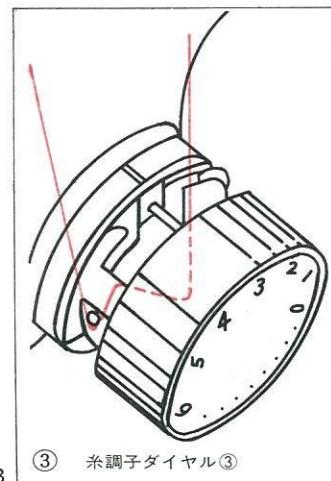


押えをあげ、針上げボタンを押して天びんをあげる。糸ごまから引き出した糸を、天板糸案内①に掛ける。

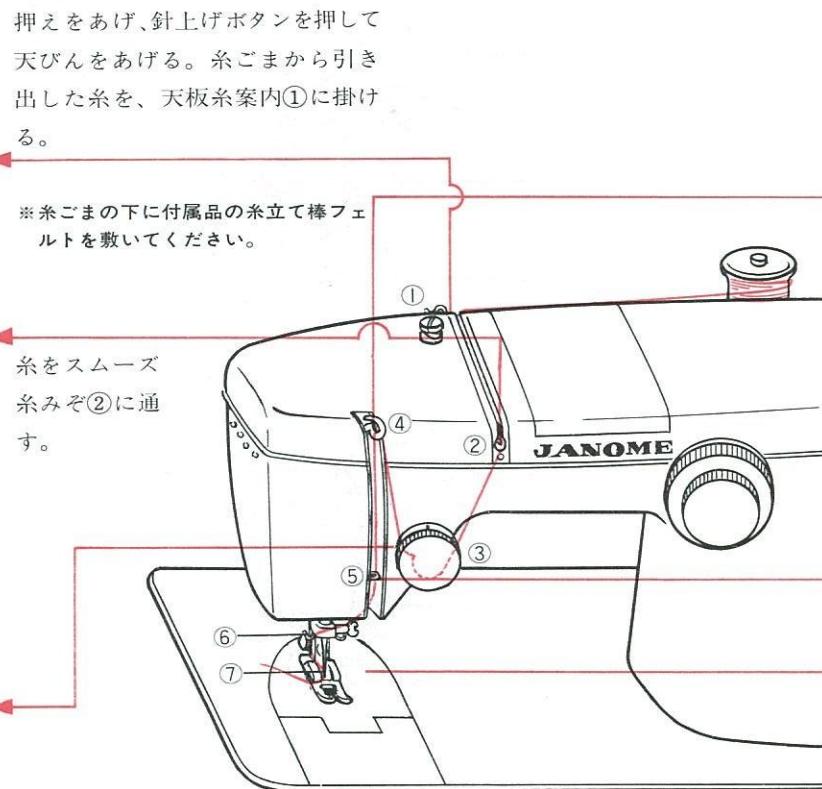
※糸ごまの下に付属品の糸立て棒フェルトを敷いてください。



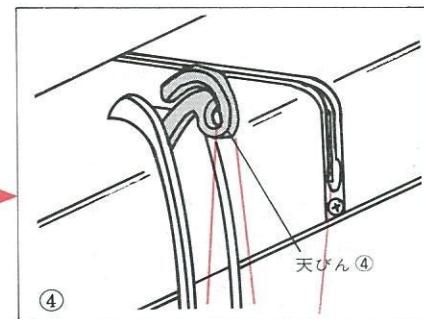
糸をスムーズ糸みぞ②に通す。



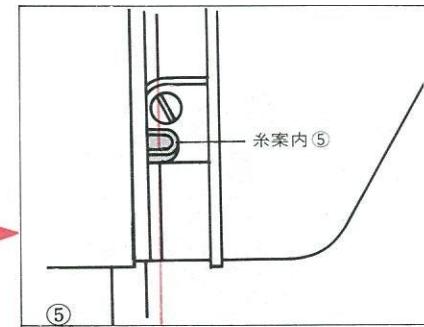
糸を糸調子ダイヤル③に通す。
(このとき、糸調子ダイヤルの皿の間に糸を掛け右上方方向に強く引くと糸は自然に掛かる。)



天びん④に後から糸を掛け左に通す。



天びんに通した糸を糸案内⑤に右側から掛ける。

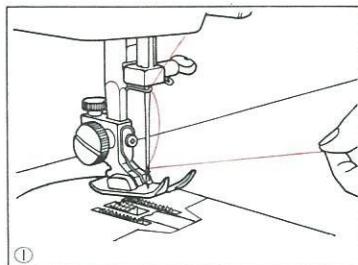


針棒糸掛け⑥に左側から掛け針⑦には手前から向こう側に糸を通す。

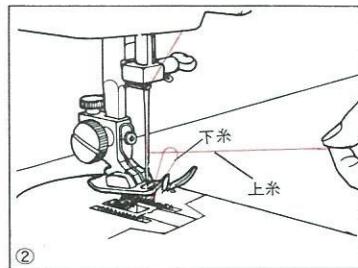


※①～⑦の順に正しい糸をかけてください。

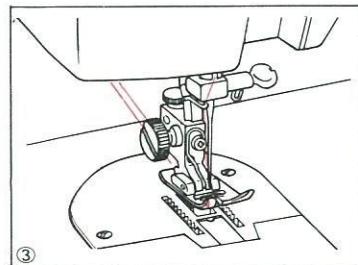
●下糸の引きあげ方



①左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持つ。



②右手ではすみ車を手前にまわし、針をいつたんさせてあげる。天びんが最上部にきたら上糸を引くと、下糸が「輪」になって出てくる。

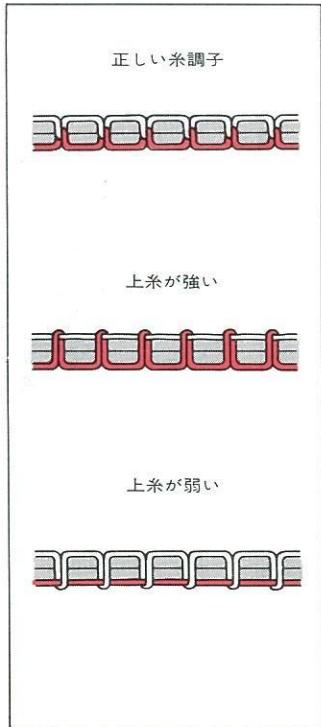
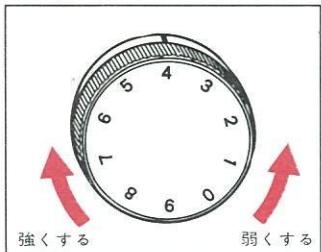


③出てきた下糸と上糸を、押えの下から向こう側へ、15cmほど引き出してそろえておく。

●糸調子の出し方

糸調子は、原則として、上糸調子を強めたり、弱めたりして調節します。

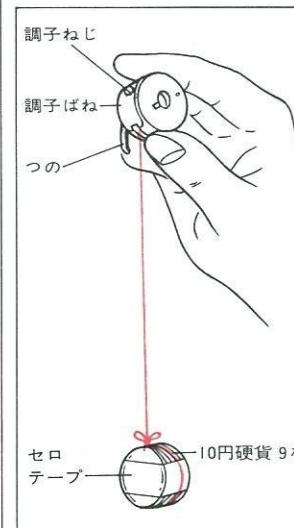
★上糸調子の出し方



★下糸調子の出し方

上糸調子を強めたり弱めたりしても調節できない場合には、下糸調子を確かめてください。

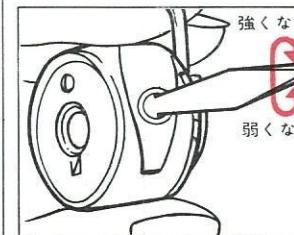
《正しい下糸調子》



①ソフトカタン糸60番をボビンケースから引き出し、10円硬貨9枚をセロテープで止めてつるす。

②ボビンケースのつのを下にして、調子ばねに触れないように持つ。

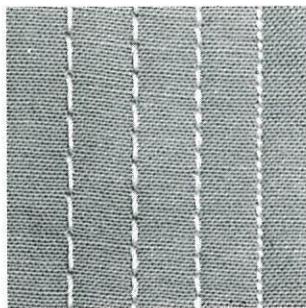
③つるした10円硬貨がごくゆっくりさがる。



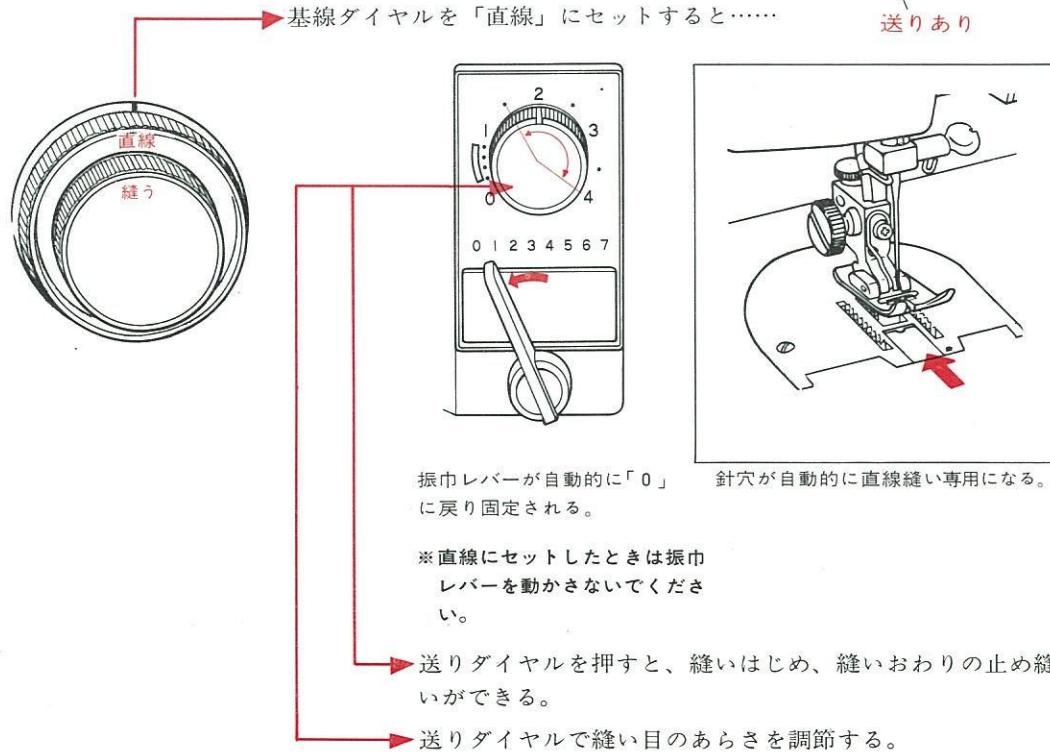
《調子の出し方》

一度、調子ねじをしめてから、10円硬貨が動きはじめるまで、少しづつゆるめる。

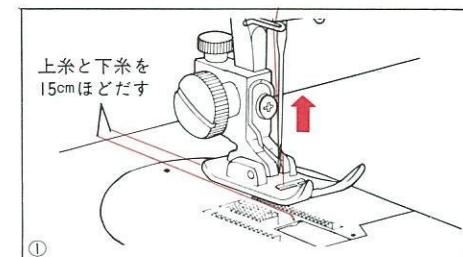
●直線縫い



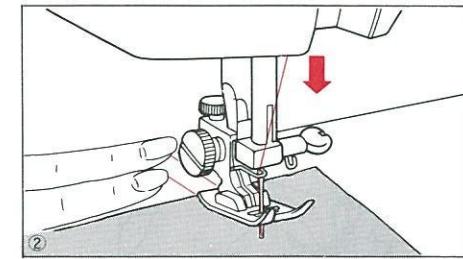
《セットのし方》



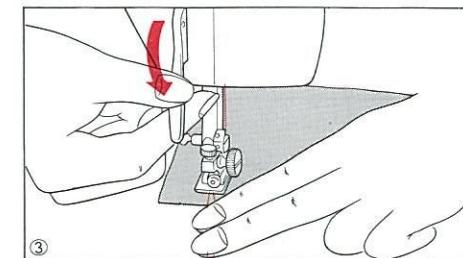
《縫いはじめ》



①上糸・下糸を押えの向こう側へ15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。



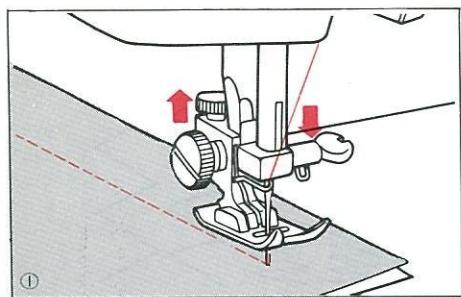
②上糸・下糸を左手で押えて、はずみ車を手前にまわし縫いはじめの位置に針をさす。



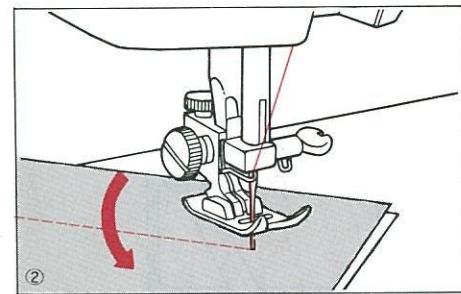
③抑えをおろし、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめる。

※縫いはじめの部分を止め縫いするときは返し縫いボタンを押してください。

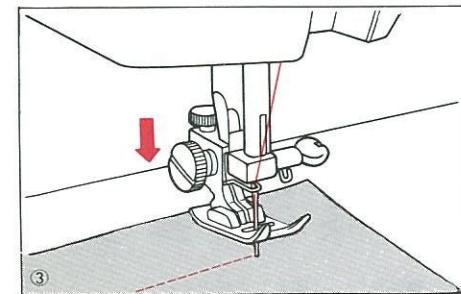
《縫い方向をかえるとき》



①針を布にさしたままミシンを止め、押えをあげる。

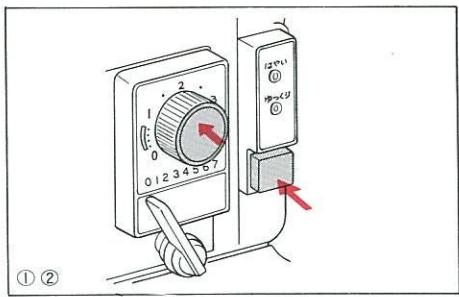


②針を軸にして、布をまわす。



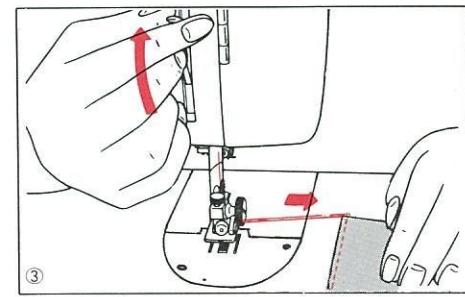
③押えをおろして縫う。

《縫いおわり》

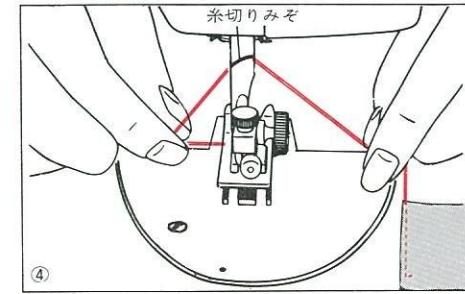


①送りダイヤルを押して、数針止め縫いをする。

②針上げボタンを押して、針をあげる。



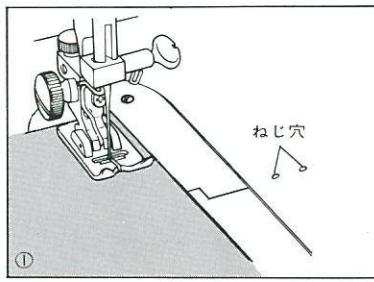
③押えをあげ、布を左向こう側に引き出す。



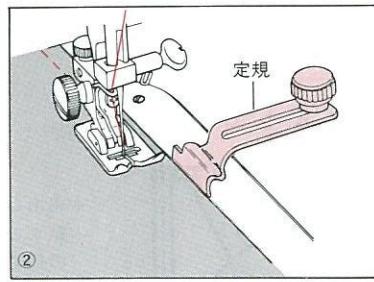
④押え棒糸切りみぞで糸を切る。

★定規の使い方

布端にそって縫いたいときなどに便利です。

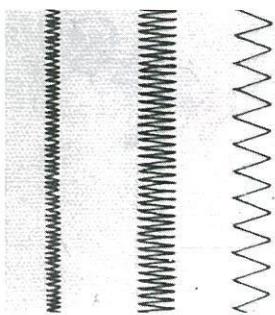


①定規を必要な間かくに合わせ、ベットのねじ穴に止めねじで、しっかりと止める。

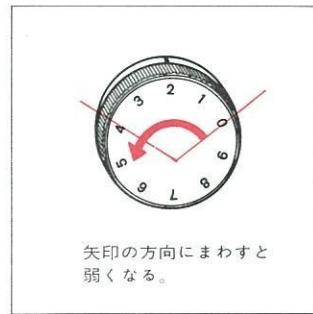
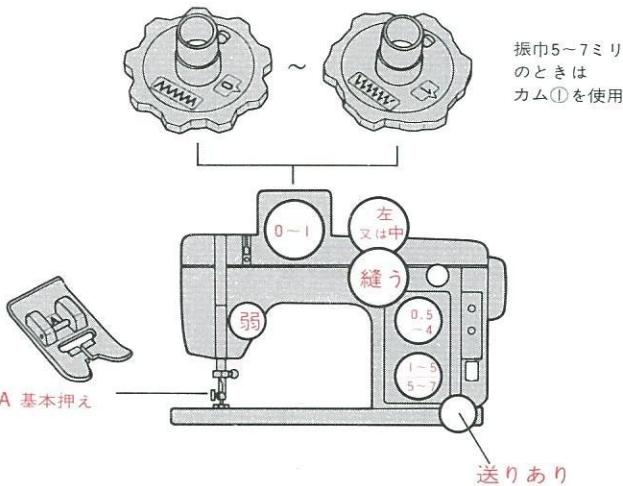


②布端を定規に軽くあてながら縫う。

●ジグザグ縫い



《セットのし方》

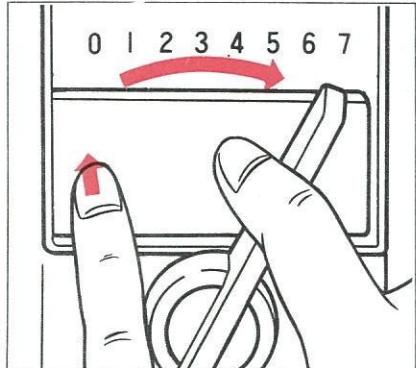


布の裏に上糸が少し出るくらいに上糸調子を弱くすると、布の表の模様が美しく縫える。

《振巾レバーのセットのし方》

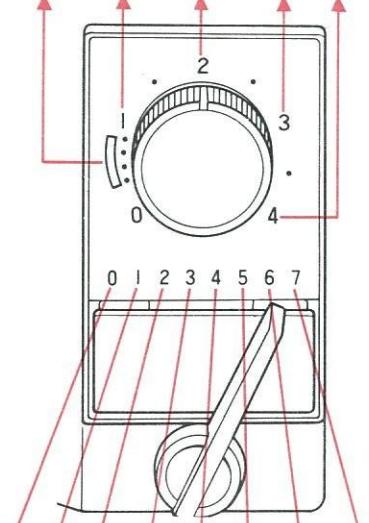
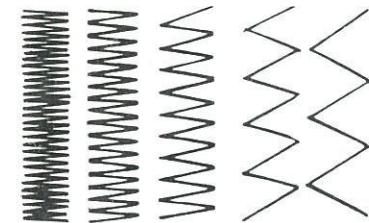
振巾レバーを移動し、振巾を選び、振巾制限ボタンを押して振巾を固定する。

※振巾レバーは振巾制限ボタンを押さずに移動すると、手をはなしたとき、もとのセットの位置に戻ります。



《送りダイヤルと振巾レバーの関係》

■振巾を「7」に固定して送りダイヤルをかえると……

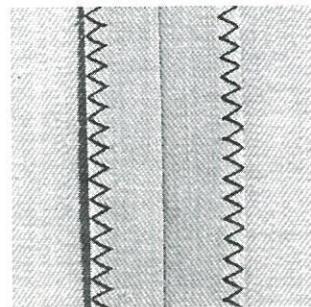


■送り「！」に固定して振巾レバーをかえると……

●裁ち目かぎり

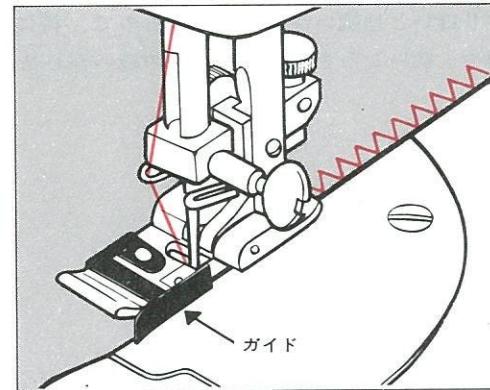
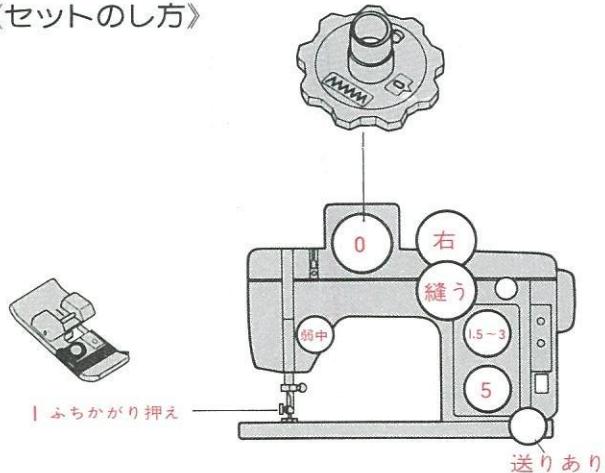
裁ち目かぎりは、布端のほつれ止めとして、特に肩・袖下・脇・見返し・股上・股下などのほつれ止めに使います。
かぎり方は、ジグザグ縫い裁ち目かぎり・かぎり縫いステッチがあります。

★ジグザグ縫い裁ち目かぎり



普通の布のほつれ止めに広く利用します。

《セットのし方》



《縫い方》

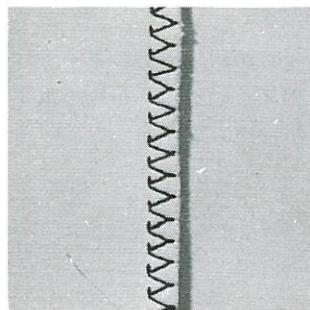
布端をふちかぎり押えのガイドにあてて押さえをおろし、布端をガイドにあてながら縫う。

♣裁ち目かぎりの利用例



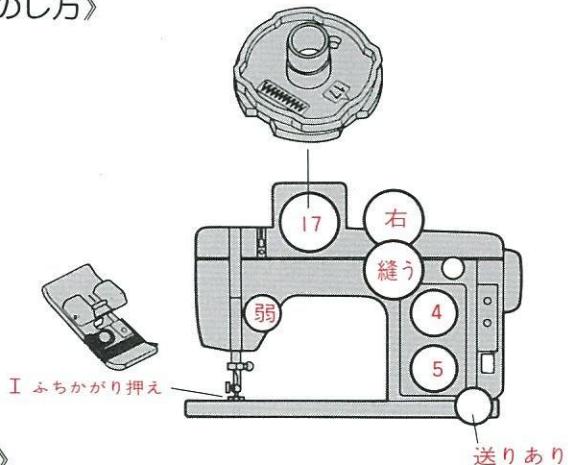
●裁ち目かがり

★かがり縫いステッチ



かがり縫いと地縫いが同時にできるので、特にほつれやすい布や、縫いしろを割らないものの縫い合わせに適しています。

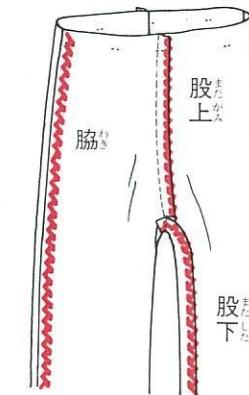
《セットのし方》



《縫い方》

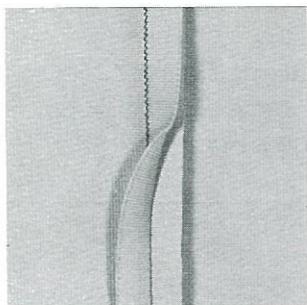
ジグザグ縫い裁ち目かがりと同じ。

♣ かがり縫いステッチの利用例



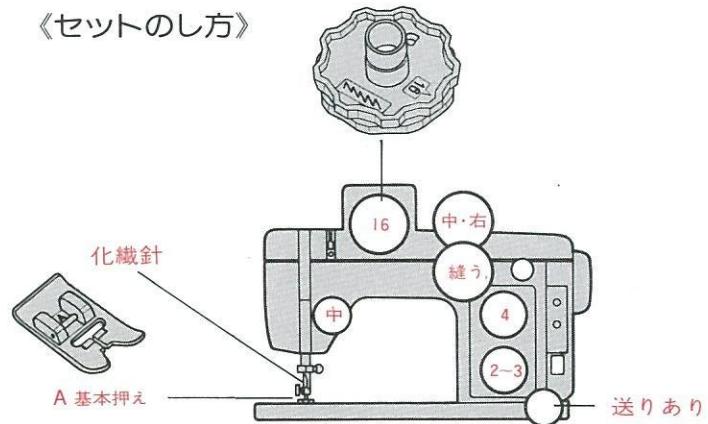
●ストレッチ(伸縮)縫い

ニット（ジャージー・トリコット）などの伸縮性のある布の縫い合わせに適しています。

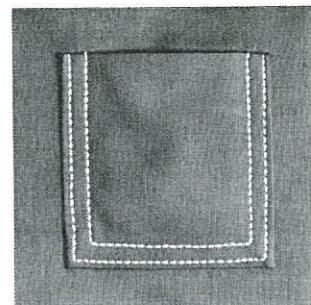
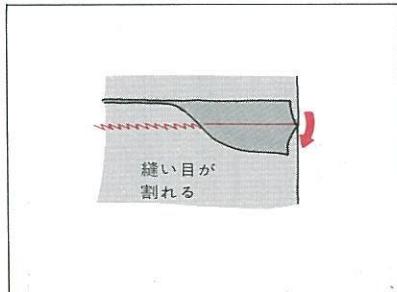
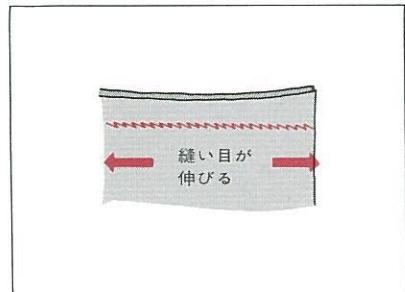


この縫い目で地縫いをすると、伸縮性があるので、布が伸びても糸が切れにくく、直線状なので縫いしろを割ることもできます。

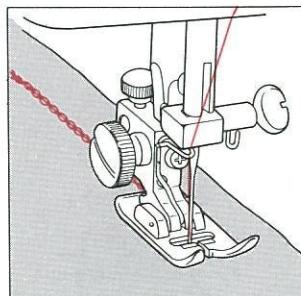
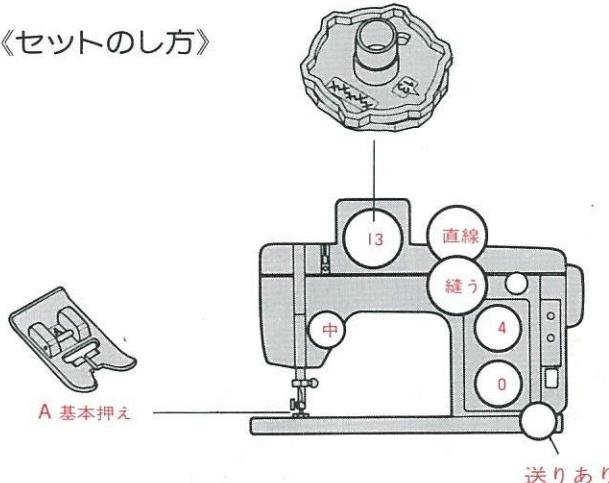
《セットのし方》



※基本押えで目とびする場合は、化織押え(別売)を使用すると効果があります。



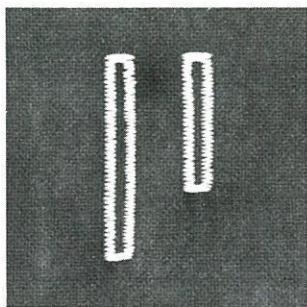
《セットのし方》



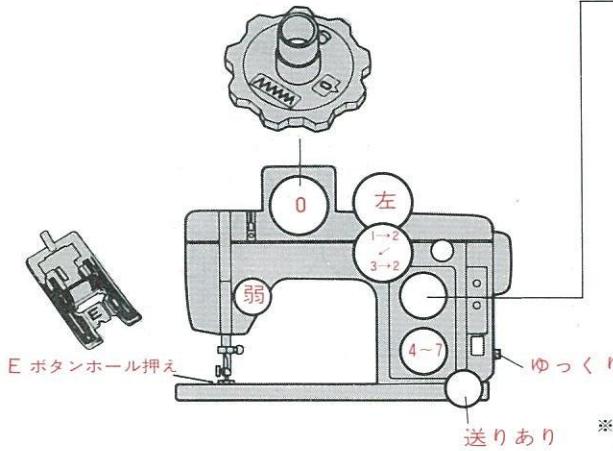
《縫い方》

布が前後して縫い目が乱れやすいので、注意して縫う。

●ボタンホールかぎり(ボタンホール)

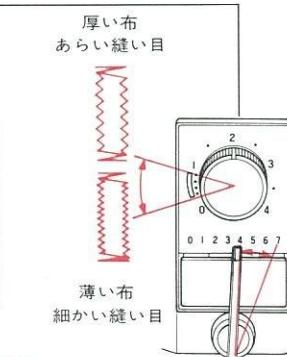


《セットのし方》

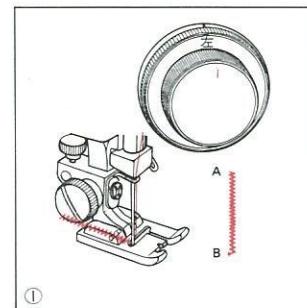
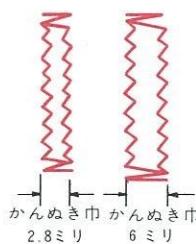


かんぬき巾と振巾レバーの関係

かんぬき巾	振巾レバー
6	7
4.2	6
3.5	5
2.8	4

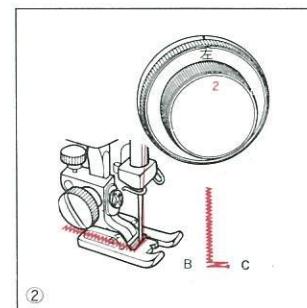


*印は、ボタン穴かぎりの縫い目あらさを調節する目安です。

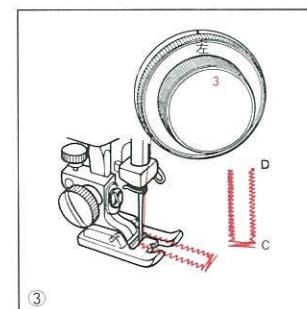


《縫い方》

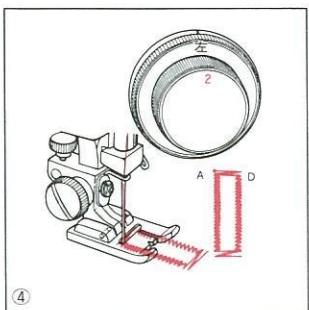
- ①上糸と下糸を左横に15cmほど引き出して押さえをおろし、ボタンホールダイヤルを「1」に合わせ必要な長さ(A～B)点まで縫う。



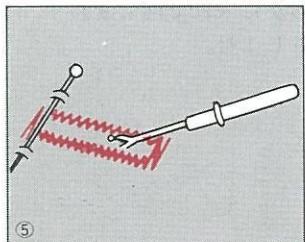
- ②ボタンホールダイヤルを「2」に合わせ、かんぬき(B～C)を5針ほど縫ってC点で止める。



- ③ボタンホールダイヤルを「3」に合わせて、左側と同じ長さの(C～D)点まで縫う。

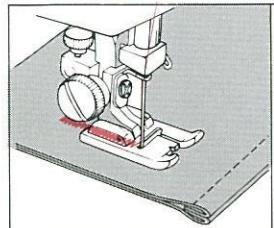


④ボタンホールダイヤルを「2」に合わせ、かんぬき(D～A)を5針ほど縫ってA点でミシンを止める。縫い終わったら上下糸を10cmくらい残して切る。下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結ぶ。

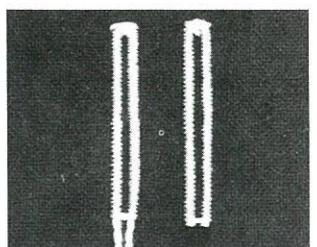


⑤かんぬきの内側にまち針を縫いさし、目ほどきでかがった糸を切らないように中央の布を切りひらく。

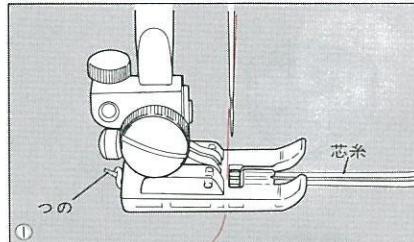
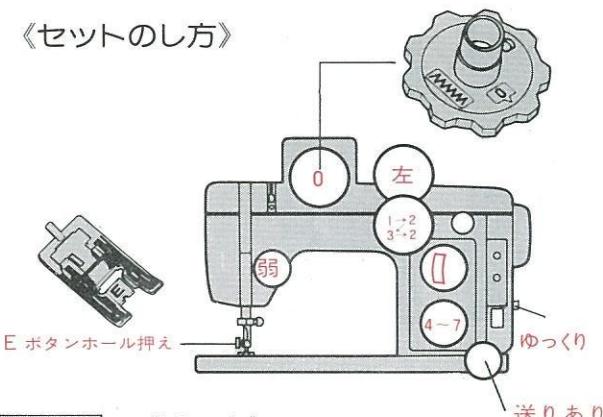
※伸縮性のある布のボタン穴かがりは、布の裏に伸びにくい接着芯をはればきれいに仕上がります。



ボタン穴の位置が縫いしろに重なっている部分のきわになるときは、図のように段部に交わる向きにし、段部を手前にして縫う。

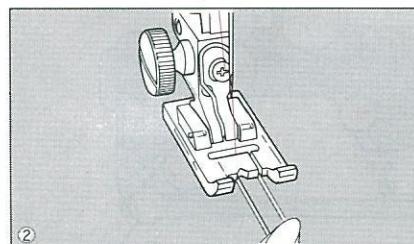


《セットのし方》

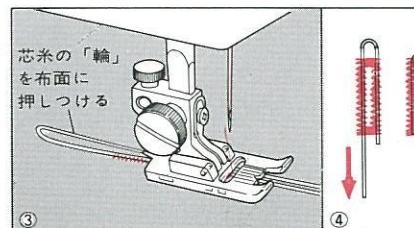


《縫い方》

①芯糸を、「輪」にして押えの後ろ側のつのに掛け、押えの下から手前に引き出し押さえおろす。



②2本の芯糸をつのの中に平行にして軽く布面に押しつけ、左側とかんぬきを縫う。

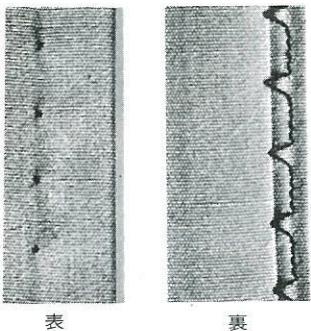


③押えの後ろ側に出ている芯糸の「輪」がつのにかかるないように布面に押しつけながら②と同じく芯糸を押さえながら右側とかんぬきを縫う。

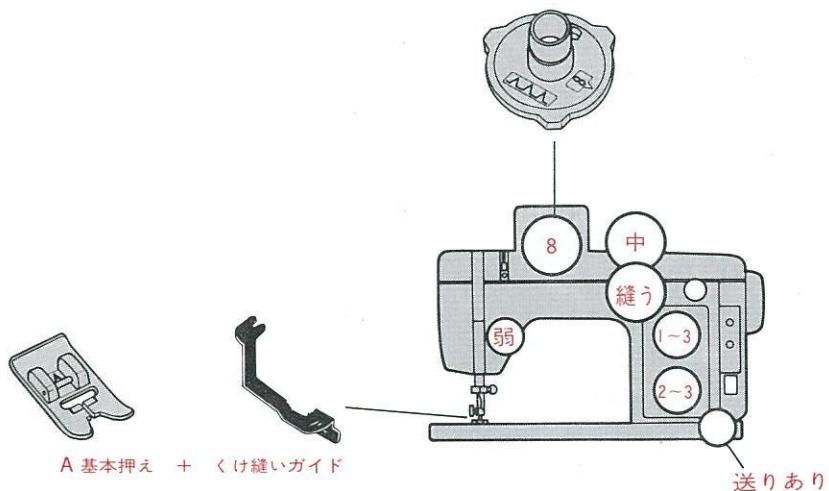
④左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切る。

※縫い方、中央の布の切りひらき方は、ボタン穴かがりと同じです。

●くけ縫い(まつり縫い)

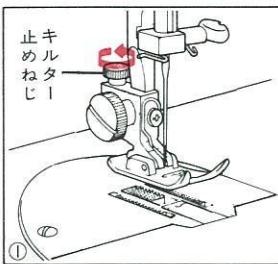


《セットのし方》

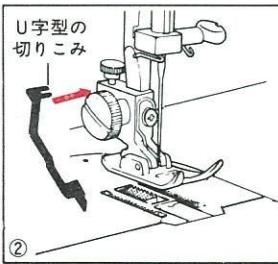


《くけ縫いガイドのつけ方》

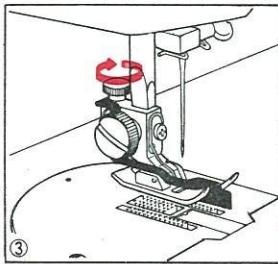
- ①押えホルダーのキルター止めねじをゆるめる。



- ②U字型の切りこみを、キルター止めねじに、後ろから入れて前にまわすようにしてさしこむ。

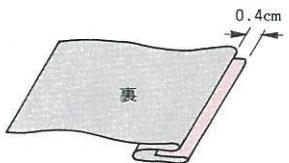


- ③基本押えの中央のスリットにガイドをおさめ、キルター止めねじをしめる。

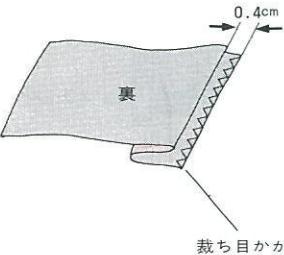


《布の折り方と縫い方》

薄地・普通地の場合



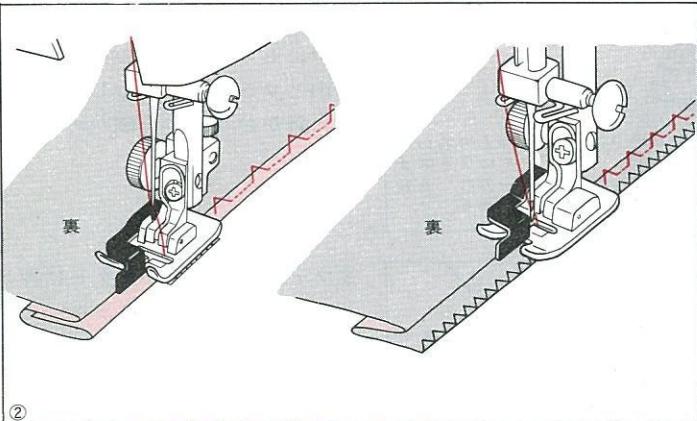
かたい布・厚地の場合



① 図のように布を折る。

①

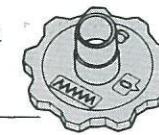
②くけ縫いガイドに折り山をあてて縫う。



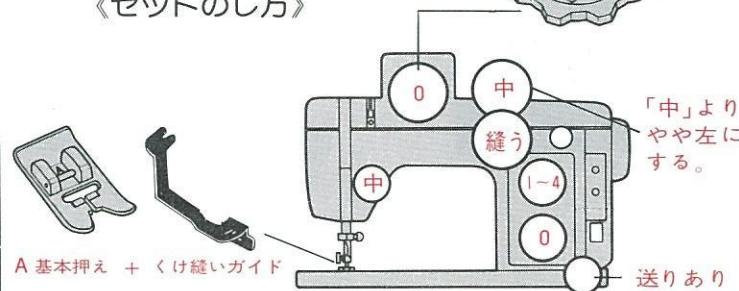
②

♣くけ縫いガイドの応用例

ポケットつけ・衿のステッチなど、布端にそって縫うときは、定規になります。

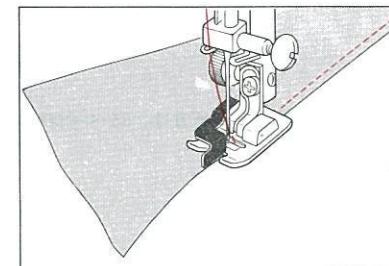
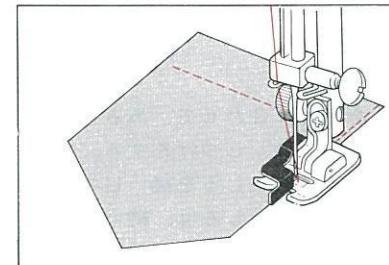


《セットのし方》



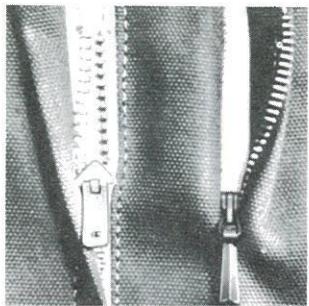
《縫い方》

くけ縫いガイドに折り山をあてて縫う。

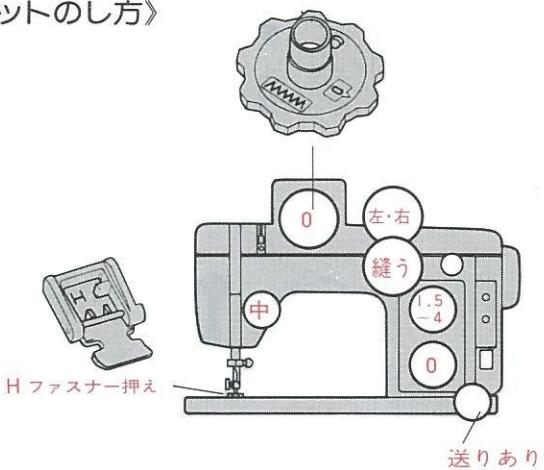


※布の表に縫い目が出る折り伏せ縫い・三つ折り縫いにも応用できます。

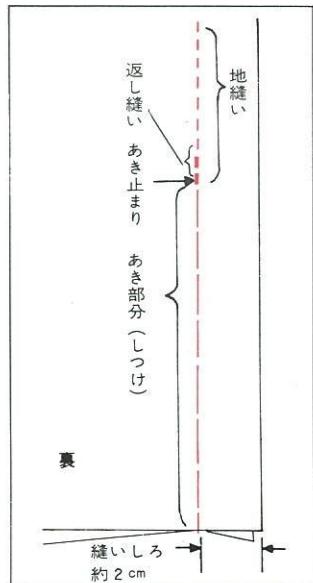
●ファスナーフラス



《セットのし方》



★ファスナーフラス



《準備》

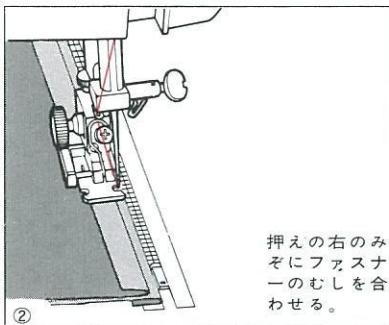
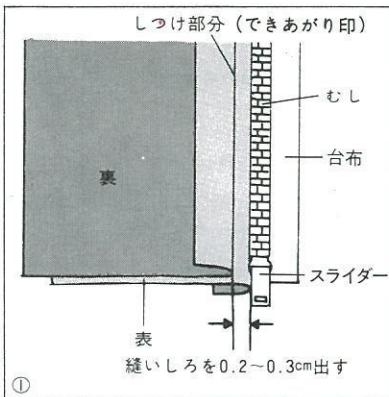
布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
あき部分は、しつけをする。
上の布の縫いしろを縫い目の線で上に折りかえす。
下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して下に折り返す。

*しつけのセットの仕方は、35ページにあります。

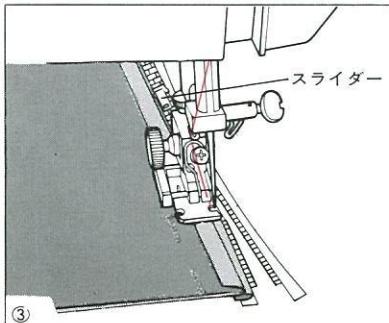
《縫い方》

①下の布の折り山を、ファスナーのむしにそわせて台布にのせる。

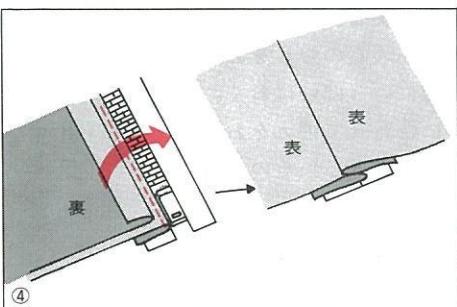
*この縫い方は、スカート左脇あきの例です。



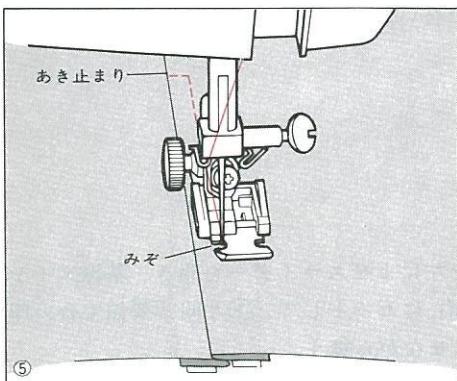
②押えを左によせ、押えのふちの右のみぞにファスナーのむしを合わせ、押えをおろす。
基線ダイヤルを「右」よりやや中にセットし、上の布の折り山とファスナーのむしとの間に針がおりるのを確かめて縫う。



③ファスナーのスライダーに押えが当たる手前でミシンを止め、針を布にさしたまま押えをあげて、スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして残りを縫う。

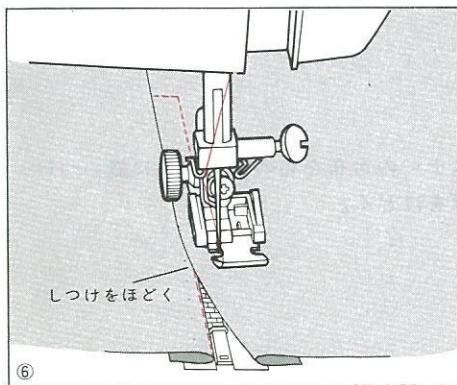


④スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にする。

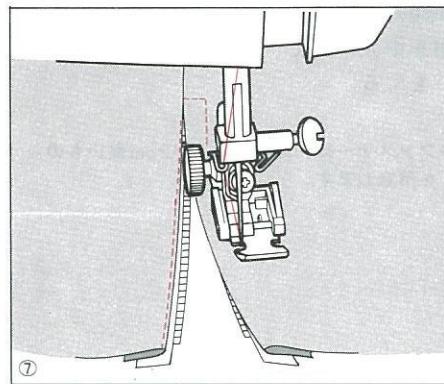


⑤抑えを右側によせ、抑え裏の左のみぞにファスナーのむしを合わせ、抑えをおろす。

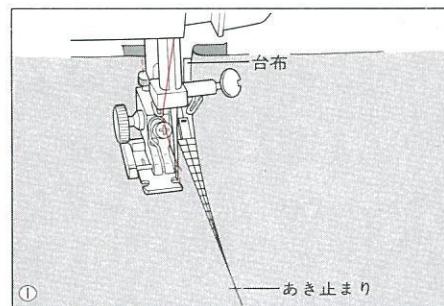
基線ダイヤルを「左」よりやや中にセットし、針が押えの針穴いっぱいにおりるのを確かめて縫う。



⑥ファスナーのスライダーに押えが当たる手前でミシンを止め、針を布にさしたまま押えをあげ、しつけをほどく。

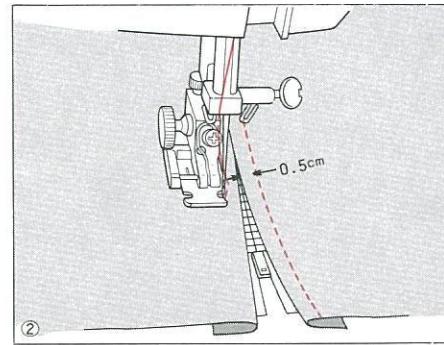


⑦ファスナーのスライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして残りを縫う。



★突き合わせにつけるとき

①あき止まりまで地縫いをし、縫いしろを割る。
ファスナーのむしが見えないよう 0.1 cm くらいかぶせて打ち合わせ、折り山から 0.5 cm はなしてあき止まりに向かって縫う。



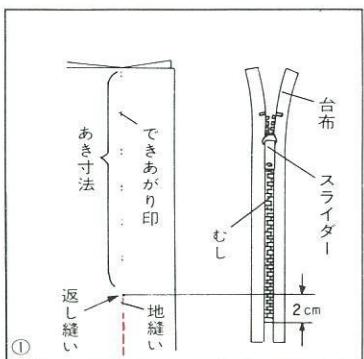
②あき止まりまで縫ったら、布をまわして、反対側を同じく折り山から 0.5 cm はなしてあき止まりから縫う。

★コンシールファスナーツイ

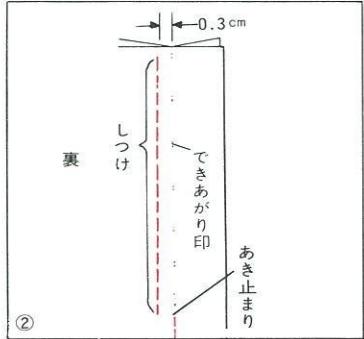
《準備》

①布を中表にして、あき止まりまで地縫いをする。

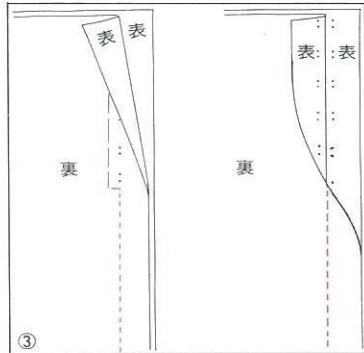
※ファスナーは、あき寸法より2cm長いものを用意します。



②地縫い線（できあがり印）から0.3cm内側に「しつけ」する。

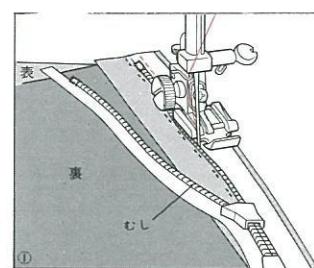


③上の布の縫いしろを身頃側へ倒して割る。

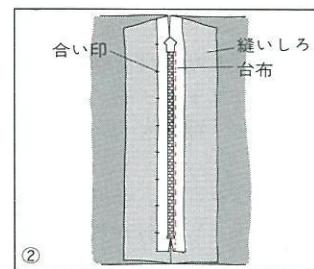


《縫い方》

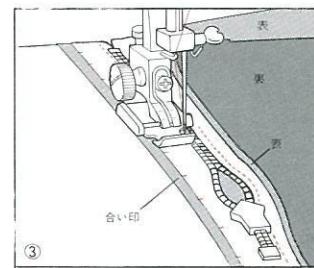
①押えを右によせ、スライダーをいっぱいに開く。ファスナーの右のむしをおこして、その左側をしつけ線にいっぱいにおく。むしを押えの裏の左みぞに合わせて押えをおろす。基線ダイヤルを「左」にセットし、そのきわを縫う。



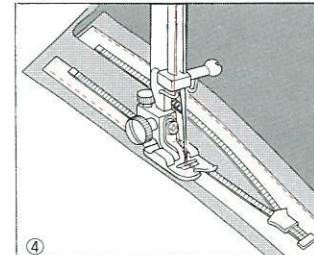
※指でむしをおこしながら縫ってください。
②スライダーをとじ、左のファスナーフレームと縫いしろに合いましをつける。



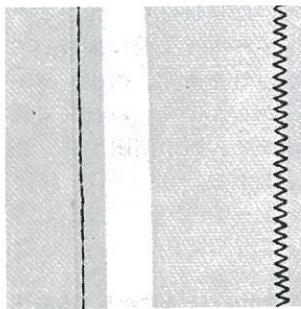
③押えを左によせスライダーを開き、基線ダイヤルを「右」にセットして、①と同じ要領で合いましを合わせながら縫う。



④ファスナーのフレームを布の縫いしろに縫いつけ、しつけをほどく。

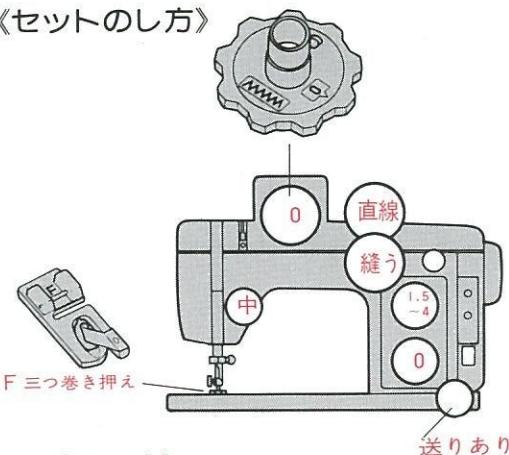


●三つ巻き縫い



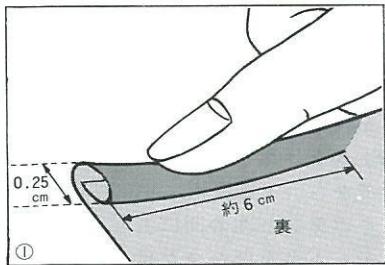
★直線三つ巻き縫い

《セットのし方》

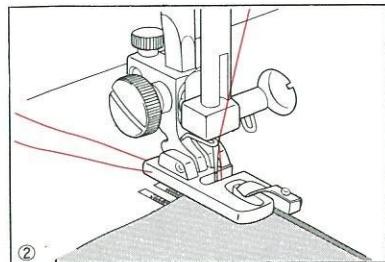


《縫い方》

- ①布端長さ約 6 cm を 0.25cm くらいの巾で 2 度折りまげます。

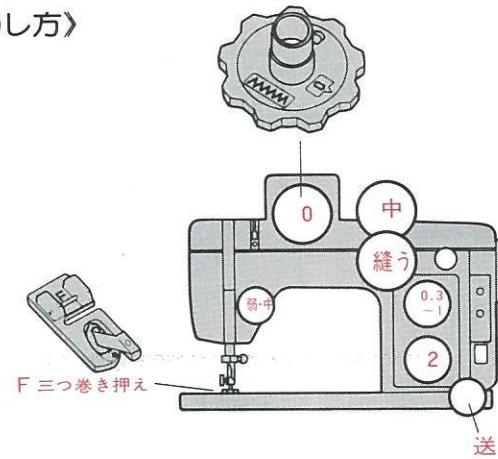


- ②針を折り山にさして押さえをおろし、上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら 2 ~ 3 針縫う。

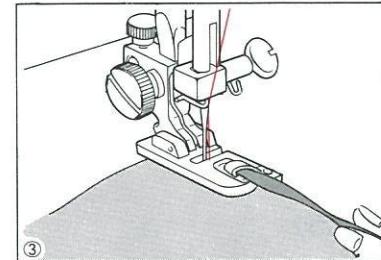


★ジグザグ三つ巻き縫い

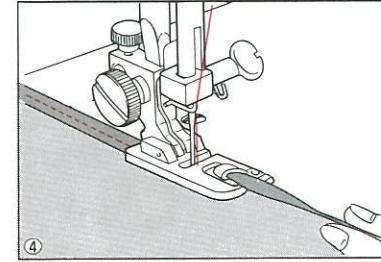
《セットのし方》



送りあり



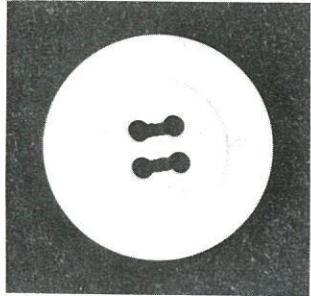
- ③針をさしたまま押さえをあげ、折りまげた布の部分を押さえの溝の中に巻きこむ。



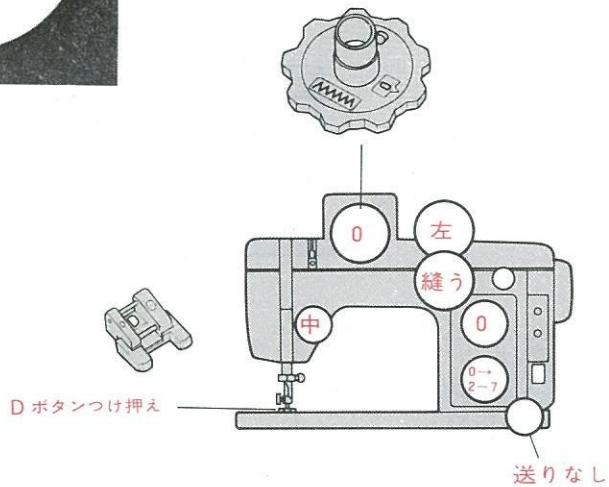
- ④押さえをおろし、布端を立てて引きぎみに持ちあげながら縫う。

※縫い方は、直線三つ巻き縫いとジグザグ縫いとも同じです。

●ボタンつけ

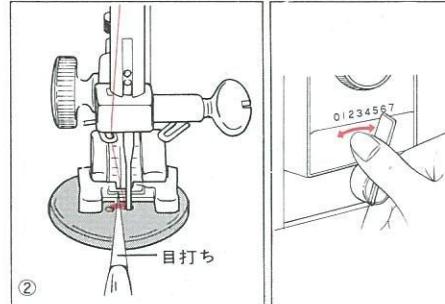
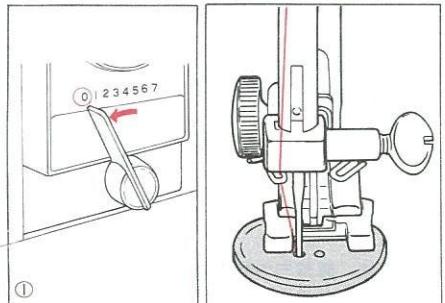


《セットのし方》



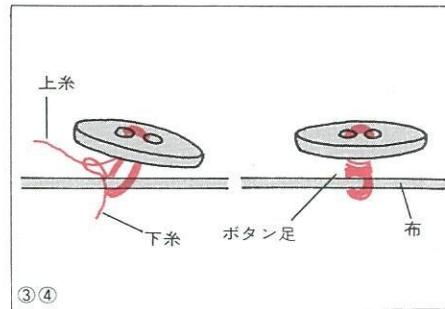
《縫い方》

①振巾レバーを「0」にセットして、ボタンの左の穴に針をさし、左右の穴を真横にならべて抑えをおろす。



②ボタン穴の間に目打ちの先などをのせ、はずみ車を手前にまわしてボタンから針をあげ、振巾レバーを右へ動かし、ボタンの右穴に針先を合わせて、振巾制限ボタンを押しセットする。

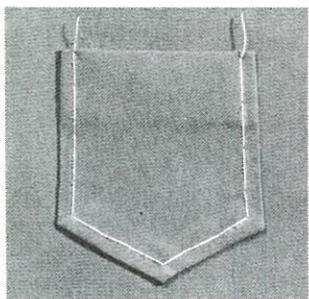
※もし針が振巾レバーを動かしても右へ動かないときは、振巾レバーを「0」に戻して1針縫ってから、振巾レバーを動かしてください。



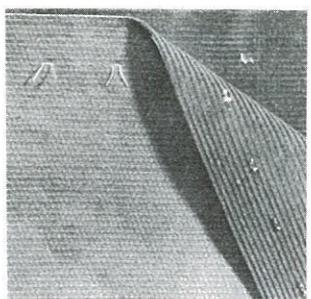
③10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切る。

④上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて、下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に巻きつけておろす。

●しつけ

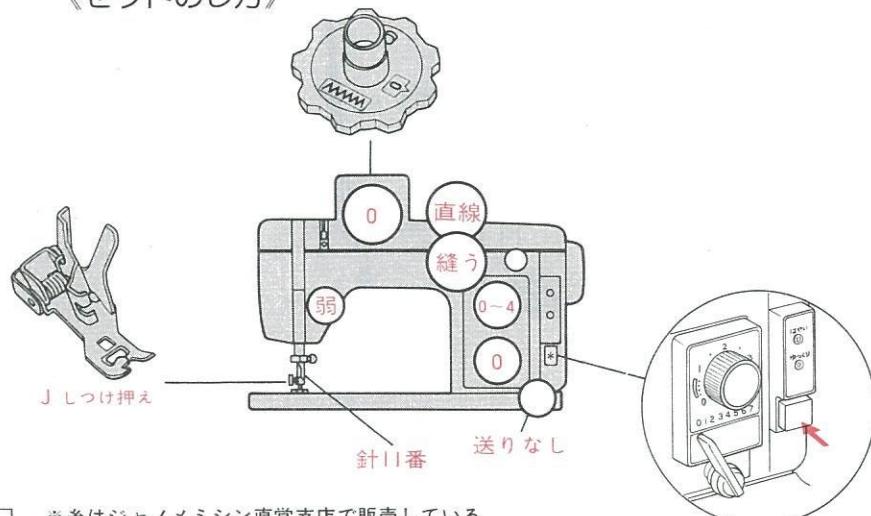


しつけ



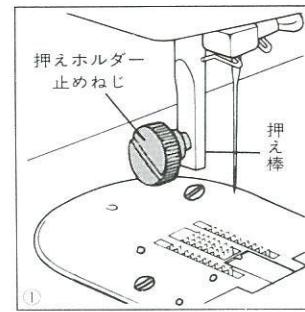
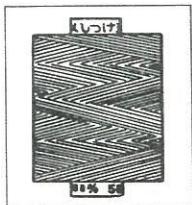
切りじつけ

《セットのし方》



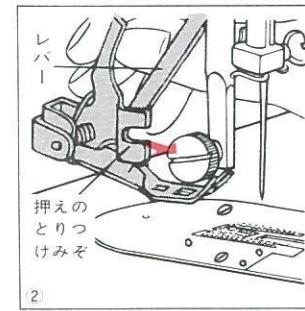
* 糸はジャノメミシン直営支店で販売している
ミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

* 1針ごとに針上げボタン
を押してください。

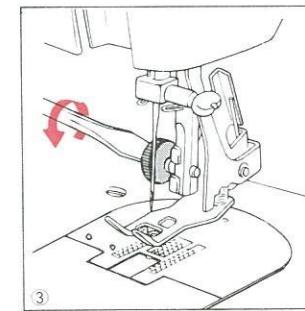


《しつけ抑えのつけ方》

①針を最上部にあげる。押え
ホルダー止めねじをはずし、
押えホルダーをはずす。押
えホルダー止めねじを2～
3山押え棒のねじ穴にねじ
込む。



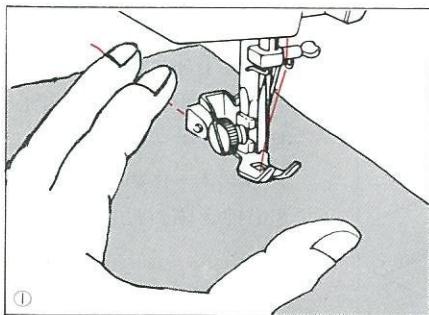
②押えのとりつけみぞを、押
えホルダー止めねじに掛け
レバーを針止めねじに向こ
うからあて、押しつけなが
ら、押えホルダー止めねじ
をしめる。



③押えホルダー止めねじをし
っかりねじまわしでしめつ
ける。

*しつけ押えをとりはずすときは、押えホルダー止めねじをはずし
てください。押えホルダーのとりつけ方は13ページにあります。

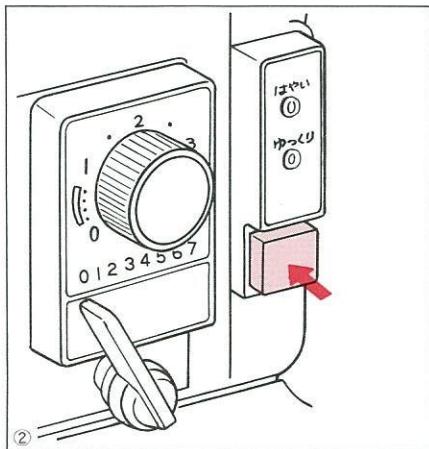
●しつけ



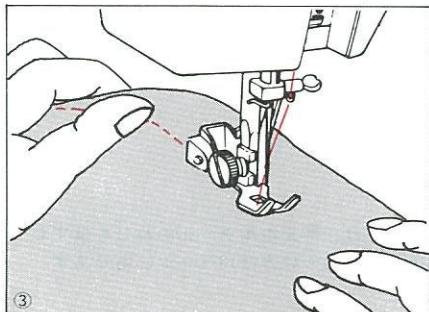
《縫い方》

- ①上糸と下糸を向こう側に引き、押さえをおろして縫いはじめる。

※布を前後にぴんと張って縫ってください。

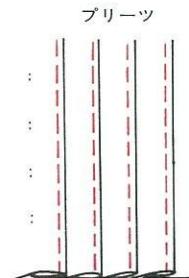
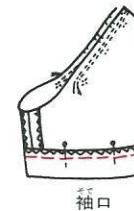
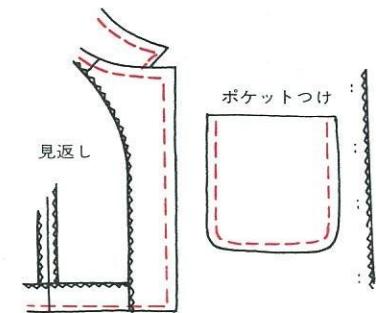
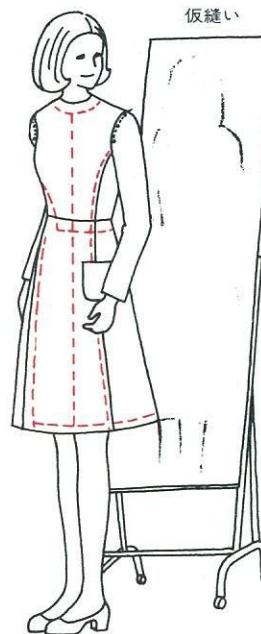


- ②針上げボタンをいっぱいに押し、一針縫って針があがったらボタンをはなす。

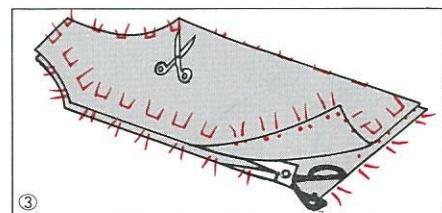
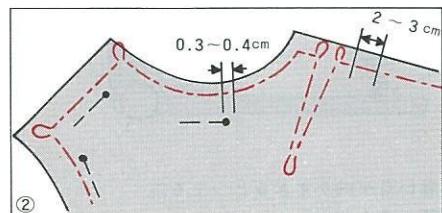
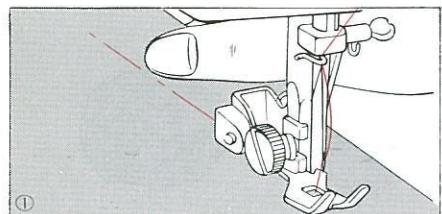


- ③縫い目をつまんで、布を向こう側に手で送り、さらに②の要領を繰り返す。
縫いおわりは、指で糸と布を押えたまま、向こう側に引き出して糸を切る。

♣しつけの利用例



★切りじつけ



※ミシンの針目が残ると困る布は、さけてください。

《縫い方》

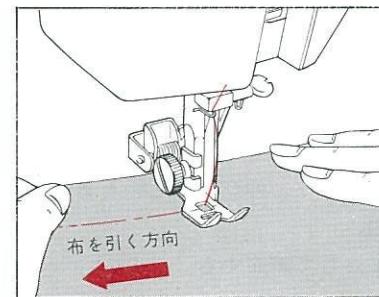
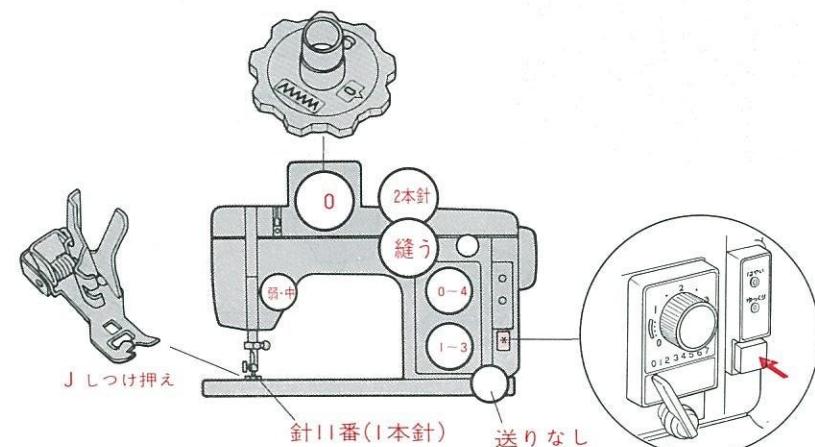
①0.3cmくらいの短い縫い目と3cmくらいの長い縫い目を交互に縫う。

②縫い方向をかえるときは、チャコで印をつけたところを、2針づつ近づけて縫い、かどのところは糸をたるませる。

③長い縫い目の糸を両面とも中間で切り、さらに2枚の布をひらきぎみにして、布の間の糸を切る。糸を0.5cmほど残して切りそろえ、アイロンで押えて仕上げる。

★横縫いの切りじつけ

《セットのし方》

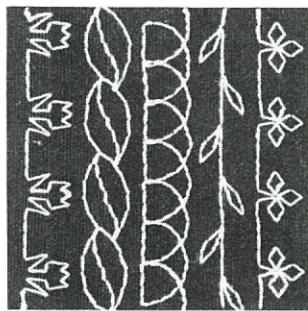


《縫い方》

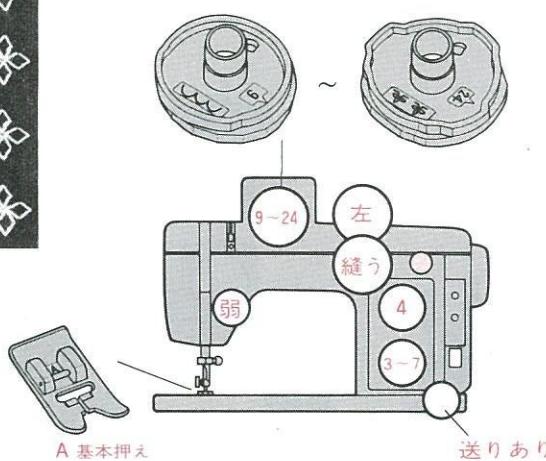
はずみ車を手前にまわして、針が左におりるようにする。押さえをおろし布を両手でピンと張る。左手で布を押え、右手で針上げボタンを2回押す。上下糸を布の裏表から手で押えて、必要な縫い目長さだけ両手で布を左側に送る。この要領を繰り返す。

●自動模様縫い

★スーパー模様縫い



《セットのし方》



《スーパー模様の形の整え方》

模様がくずれた場合は、ユニダイヤルで調節する。

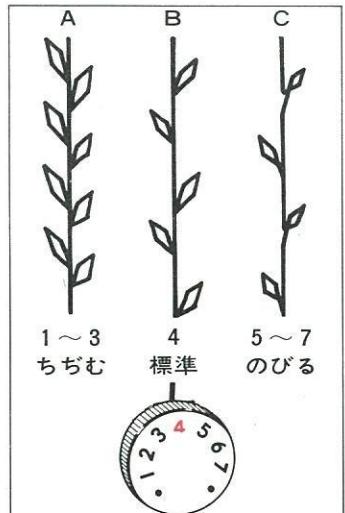
図の例(カム18)では

「B」が正しい形。

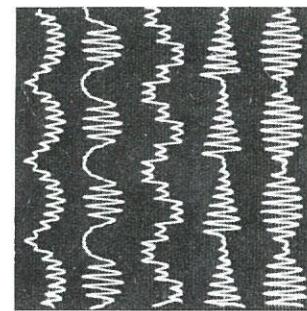
「A」のようにつまつた感じのときは「5～7」の側。

「C」のよう伸びた感じのときは「1～3」の側。

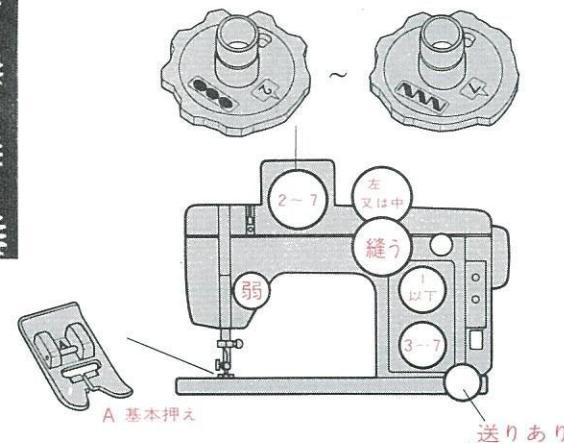
にまわして調節する。



★密着模様縫い



《セットのし方》

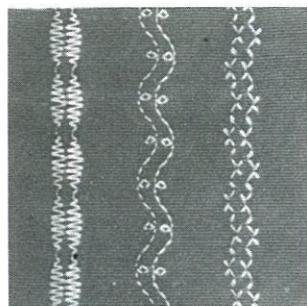


※送りダイヤルをセットするとき、縫い目が細かすぎるとつまることがあるので、試し縫いをして調節してください。

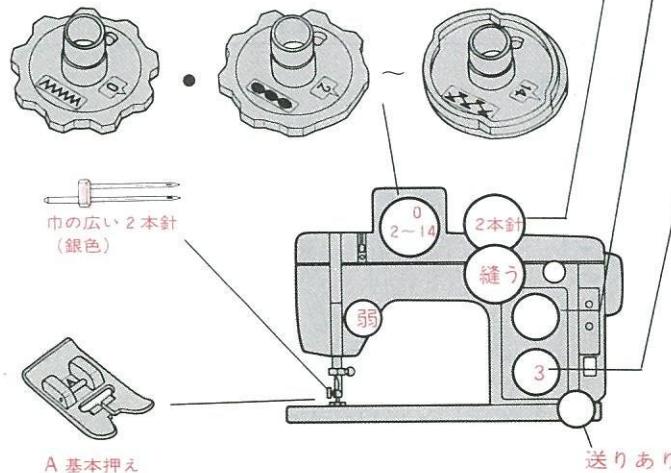
♣自動模様縫いの利用例



● 2本針縫い



《セットのし方》



基線ダイヤルのセット

■ 2本針



送りダイヤルのセット

■ ①②~⑧のシングルカムを使うときは□の範囲。

■ ⑩~⑭のダブルカムを使うときは4

※ ⑨~⑭のダブルカムのときはユニダイヤルで模様が変化します。

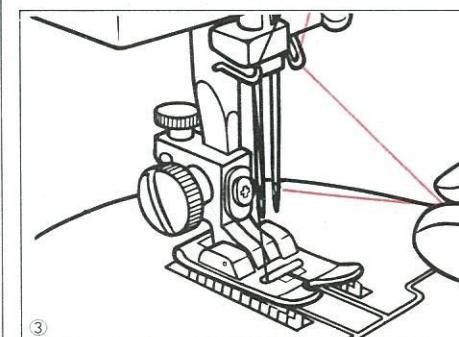
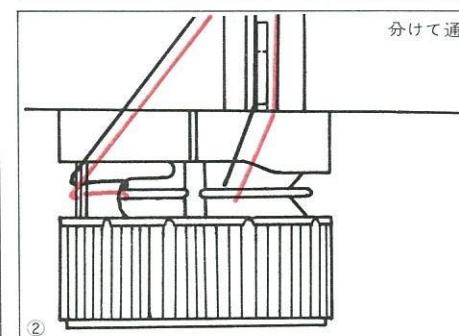
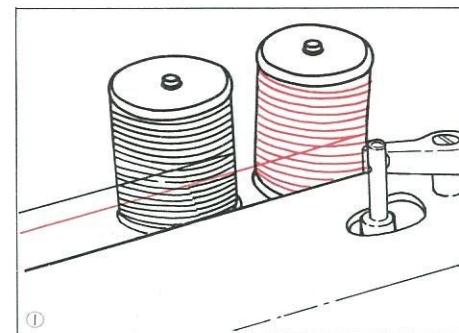
※カム⑨の2本針縫いのときは1~4

振巾レバーのセット

■ 振巾レバーを「3」以下の範囲でセットする。

※ 基線ダイヤルを「2本針」にセットすると、振巾レバーは「0」「3」の範囲で固定され振巾が「3」以上になっているときは、自動的に「3」まで戻りますので、無理にそれ以上動かさないでください。

《2本針縫いの上糸の掛け方》



① 2本の糸をそろえて天板糸案内に通す。

② スムーズ糸みぞ、上糸調子器には、左右に分けて通し、再び2本の糸をそろえて糸案内糸掛けに通す。

③ 左右に分けて針棒糸掛け、さらに2本針に通す。

※ 鈍のつけ・はずしは、ダイヤルをセットした後に行ってください。

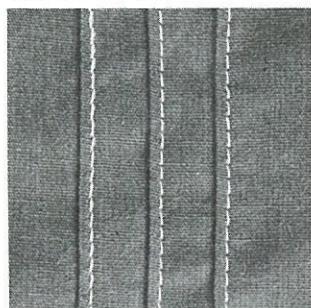
※ ジャノメ独特の2本針を使用してください。

※ 2本の糸は、糸ごまから針穴まで、よじれないように通してください。

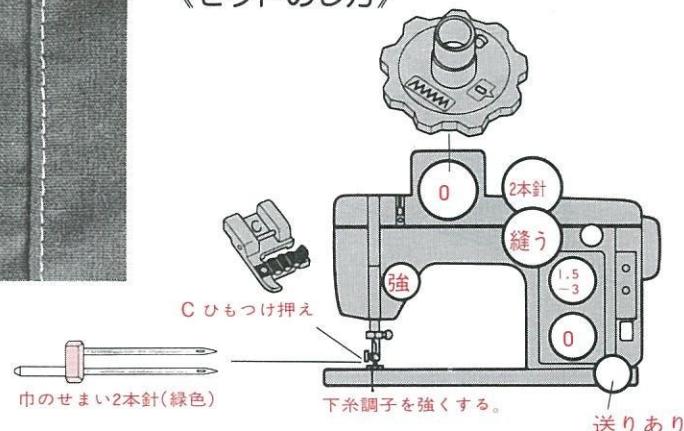
※ かど縫いをするときには、針を布からあげて、布の方向をかえてください。

●ピンタック

★ピンタック



《セットのし方》



※縫いおわったら、正しい下糸調子に戻しておいてください。

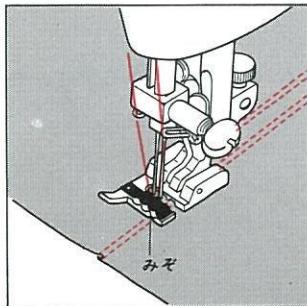
※下糸調子の出し方は、19ページにあります。

《縫い方》

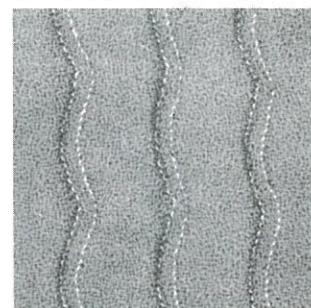
0.4cmくらいの間かくで何本かのピンタックをするときは、ひもつけ抑え裏のみぞに、前のピンタックの山を入れて縫えば平行にできる。山を片側にアイロンで倒す。

※布を前後にぴんと張って縫ってください。

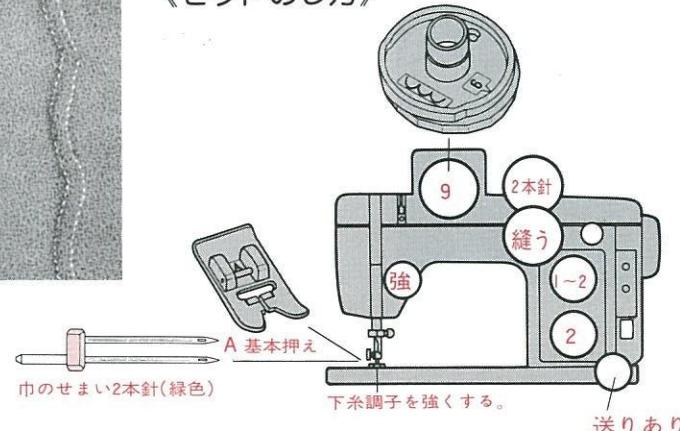
※とも切れで試し縫いをして、きれいに山が出来るように、上糸・下糸の調子を確かめてください。



★スカラップピンタック



《セットのし方》



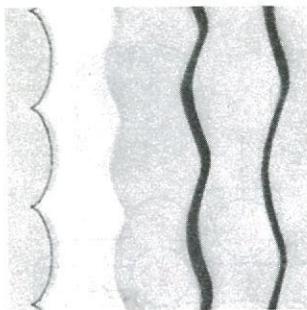
※スカラップピンタックのときは、布をバイアスに使ってください。

※縫いおわったら、正しい下糸調子に戻しておいてください。
※下糸調子の出し方は、19ページにあります。

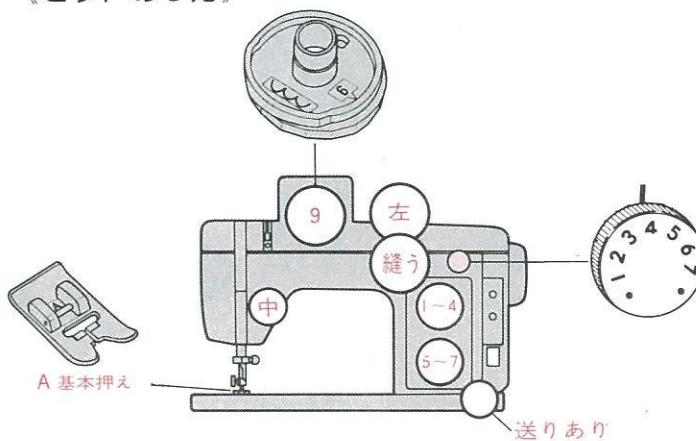
♣ピンタックの利用例



●スカラップ



《セットのし方》

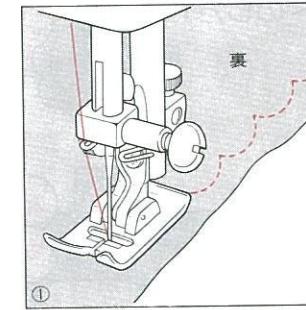


《ユニダイヤル操作で変わる縫い目の変化》

ユニダイヤル	縫い目の変化
送りダイヤルは「4」	1 ~ 3
	4
	5 ~ 7

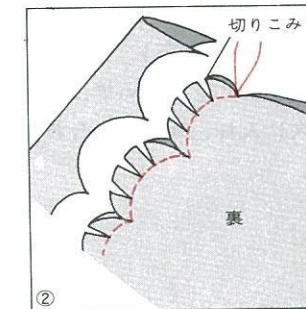
《送りダイヤル操作で変わる縫い目の変化》

送りダイヤル	縫い目の変化
ユニダイヤルは「4」	4
	2
	1

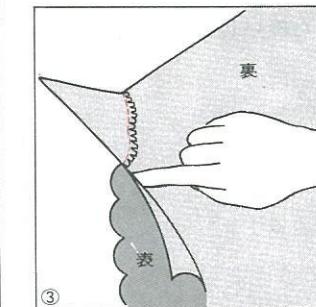


《縫い方》

①布を中表に折り、その端を縫う。

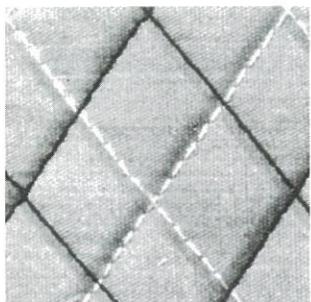


②縫い目にそって0.3cmぐらいの縫いしろを残して切りとり、縫いしろに切りこみを入れる。

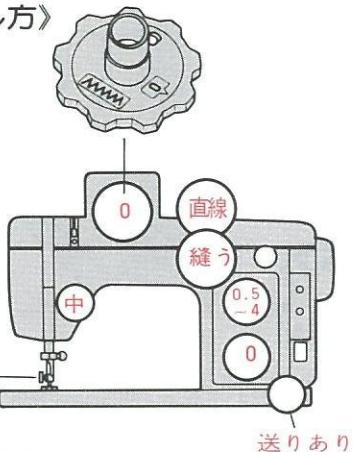


③布を表に返してスカラップの山を表に出し、アイロンで仕上げる。

●キルティング



《セットのし方》

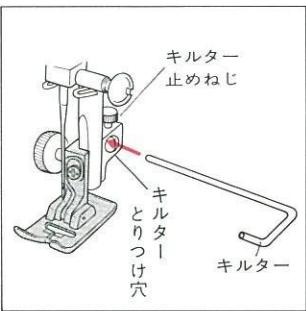


A 基本押え+キルター

送りあり

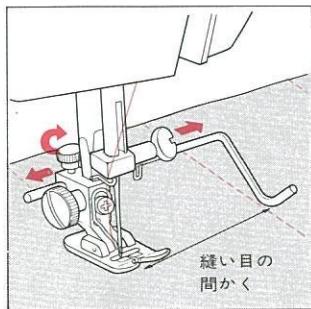
《キルターのつけ方》

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)をとりつけ穴に入れ、縫う巾に合わせて止めねじをしめる。

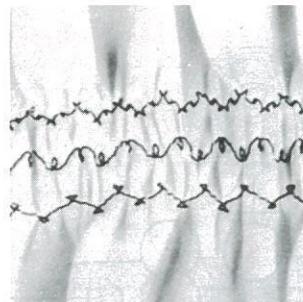


《縫い方》

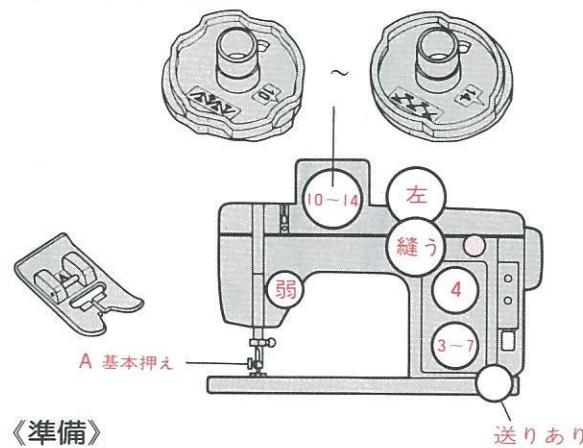
前に縫った縫い目をキルターの先でたどりながら縫う。



縫い目の
間かく



《セットのし方》

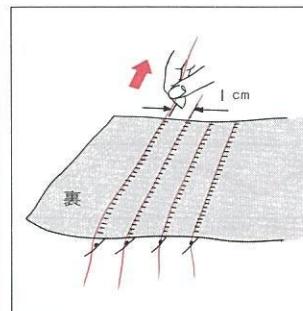


A 基本押え

送りあり

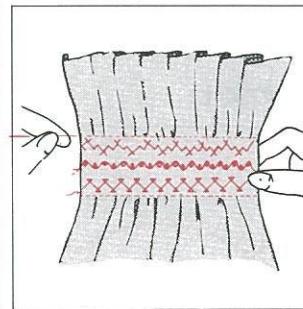
《準備》

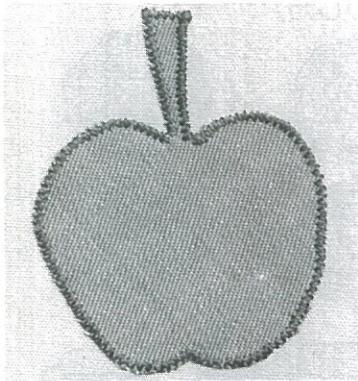
- ①上糸調子を弱くして、直線で1cm間かくくらいに数本縫う。
- ②一方の布端の上糸と下糸をむすぶ。反対側から下糸を引いて平均にひだをよせ、よせたひだが伸びないように上糸と下糸をむすぶ。



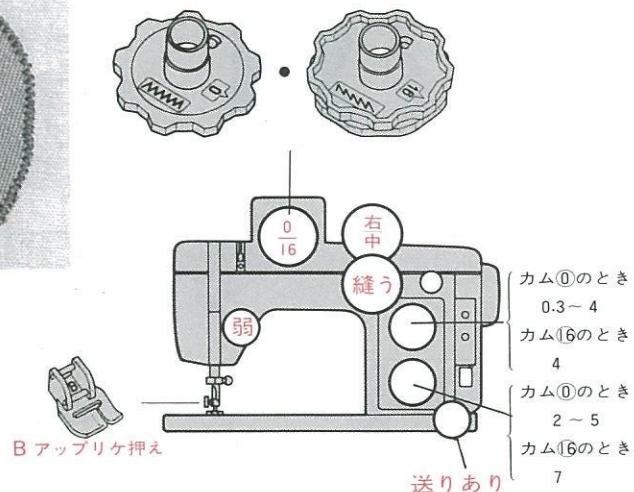
《縫い方》

- ①直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをする。
- ②直線縫いをした糸を抜きとる。

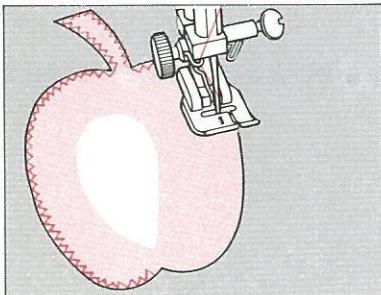




《セットのし方》



※アップリケ押えのつけ方は、13ページにあります。

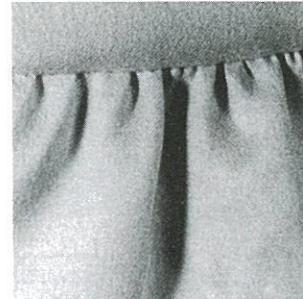


《縫い方》

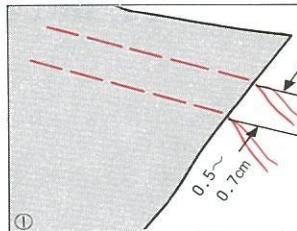
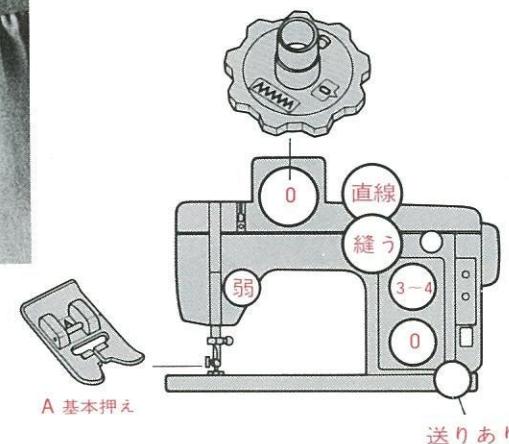
糊づけまたはしつけで止めたアップリケ布のふちを、押えのスリットでたどりながら縫う。

※急角度のところは、針をアップリケ布の外側にさしたままで向きをかえると、きれいに仕上がります。

※スペシャルカムS-1でも美しいアップリケができます。

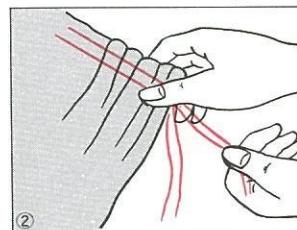


《セットのし方》

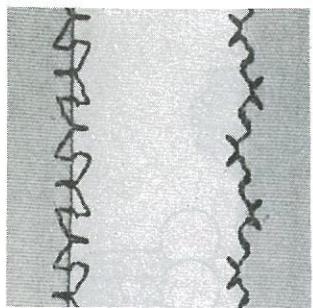


《縫い方》

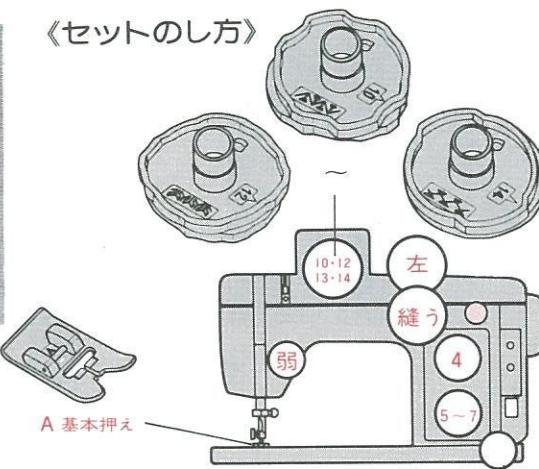
①上糸調子を弱くして0.5~0.7cmの間からで
2本平行に縫う。



②布を強くつまみ、上糸はそのままにして下糸を両側から引いて平均にひだをよせる。



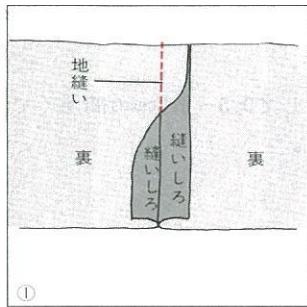
《セットのし方》



《縫い方》

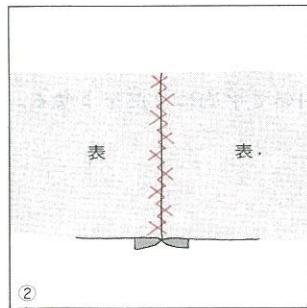
①布を中表に合わせ、地縫いをし、縫いしろを割る。

送りあり



①

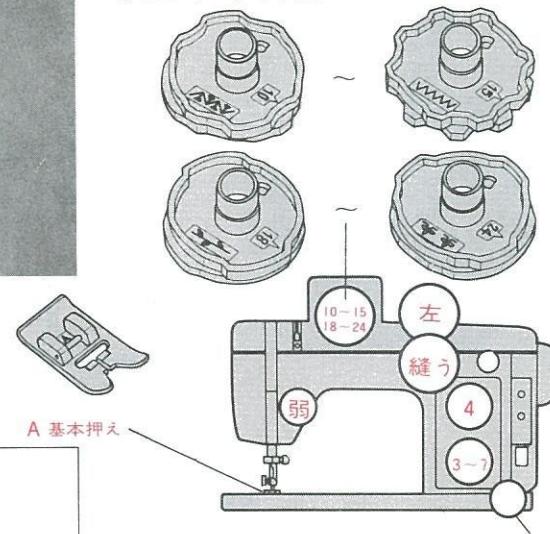
②布の表から地縫いの線を中心にして縫う。



②

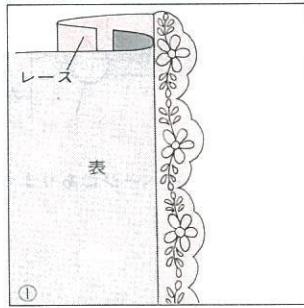


《セットのし方》

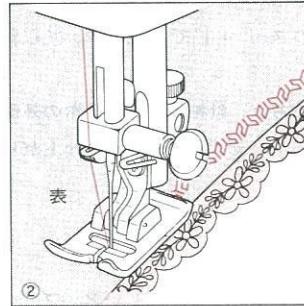


《縫い方》

①布端を裏側に、レースの端を表側に折り返して、折り返した部分のふちを突き合わせて重ねる。



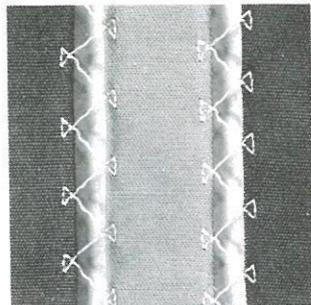
①



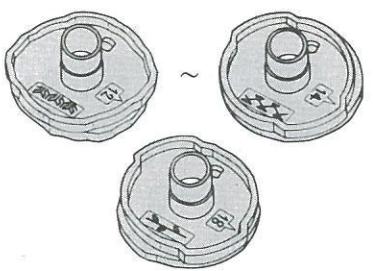
②

②布の表から①の突き合わせ線を中心にして縫う。

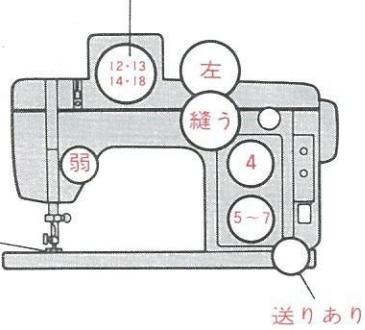
● ファゴティング



《セットのし方》



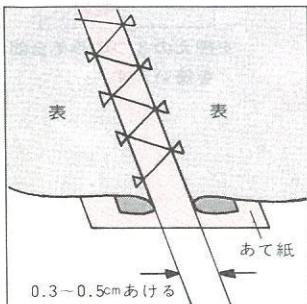
A 基本抑え



送りあり

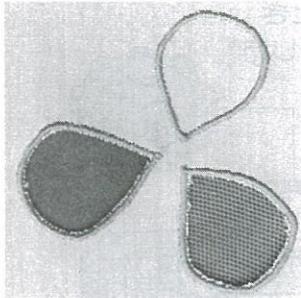
《縫い方》

- ① 布端と布端の間かくを0.3~0.5cmあけて、裏にあて紙をする。
- ② 布の表からあて紙の中央を中心にして縫う。
- ③ あて紙をとる。

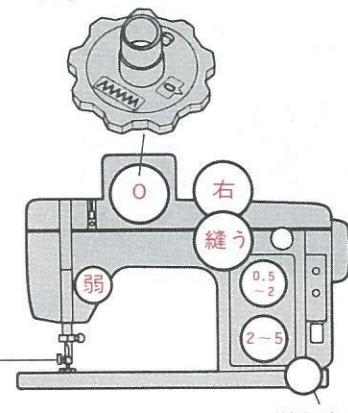


0.3~0.5cmあける

● カットワーク

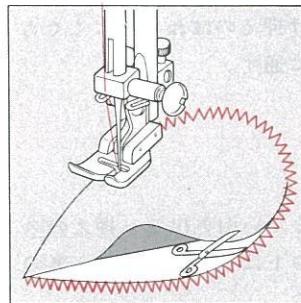


《セットのし方》



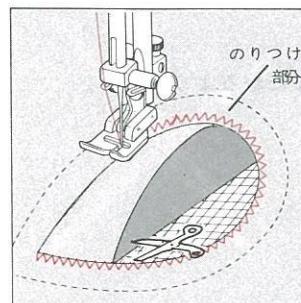
B アップリケ抑え

送りあり



《縫い方》
(A)

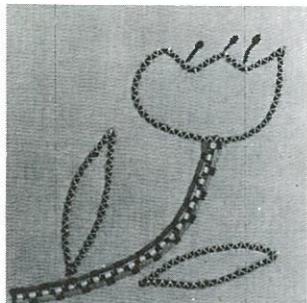
布の表から模様のふちをかぎり、かがった糸を切らないように中を切り抜く。



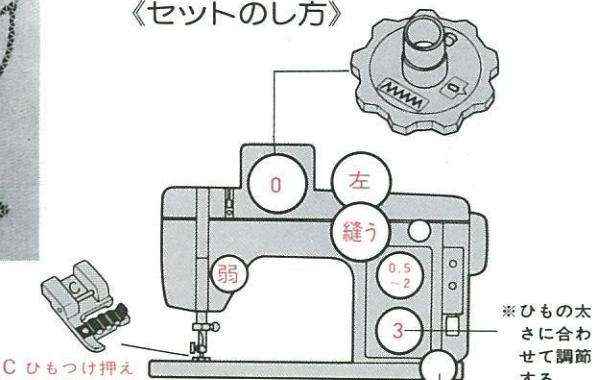
(B)

布の裏に模様の内側にはみ出さないように糊をつけ、チュールをはりつける。
布の表から模様のふちをかぎり、かがった糸と布の下のチュールを切らないように布を切り抜く。

●コーディング



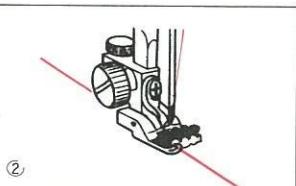
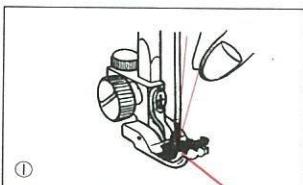
★1本ひものとき 《セットのし方》



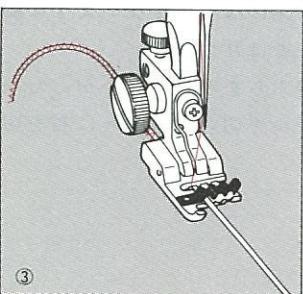
《縫い方》

送りあり

- ①ひものを、ひもつけ押えのばねの下にくぐらせ、左端のみぞに通す。

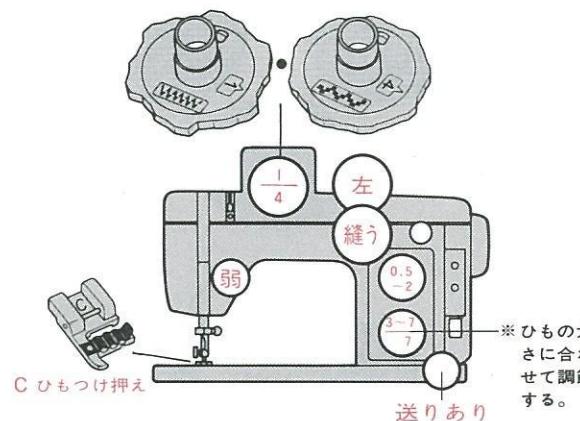


- ②向こう側に10cmくらい引き出し、押えのスリットから押えの下にくぐらせ、押え裏のみぞに入れる。



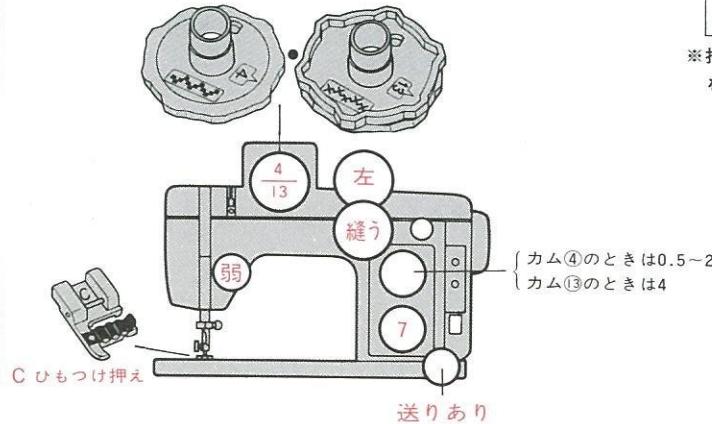
- ③縫い目がひにもたがるように縫う。

★2本ひものとき 《セットのし方》



※カム①のときは、押えの左の2つのみぞ、また両側のみぞを使います。カム④のときは、押えの両側のみぞを使います。

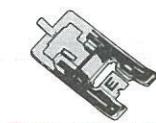
★3本ひものとき 《セットのし方》



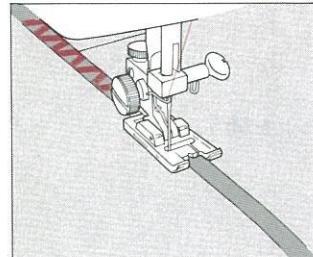
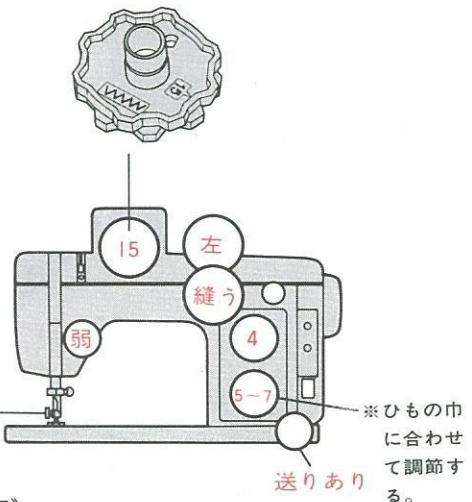
※押えの3つのみぞ全部を使います。



《セットのし方》



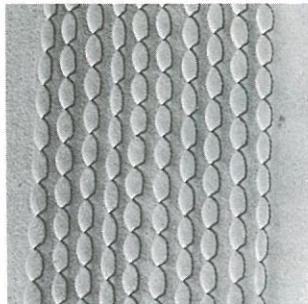
E ボタンホール押え



《縫い方》

押えのみぞに0.5~0.7cmのコードやブレードなどを入れて縫う。

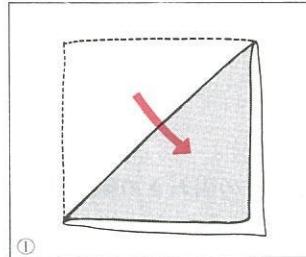
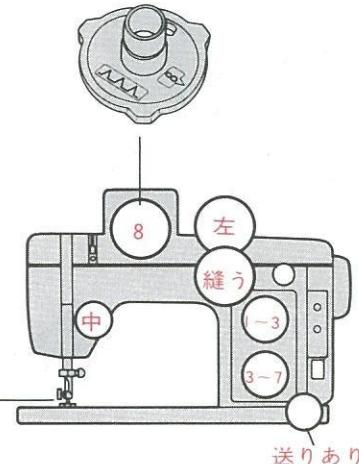
※コードやブレードの縫いはじめの部分を、同色の糸で布に止めておくと、抜け落ちるのが防げます。



《セットのし方》

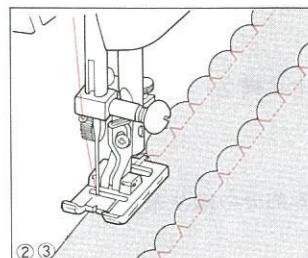


E ボタンホール押え



《縫い方》

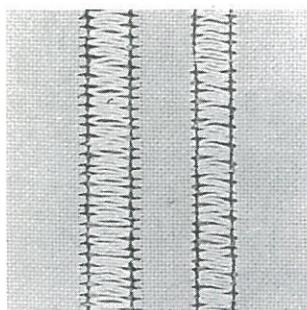
①布をバイアスに2つ折りにする。



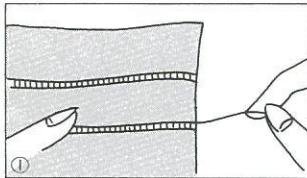
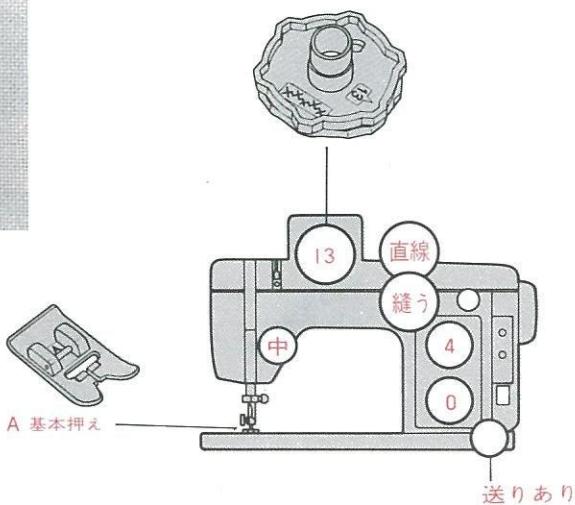
②左の針位置を布の「輪」の外側きわにおりるようにして縫う。

③布をひらいて、山をアイロンで片側に倒す。

※糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにできるように「3」「6」を目安に調節してください。



《セットのし方》

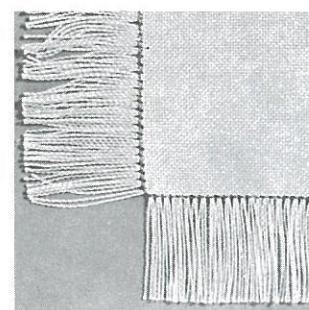
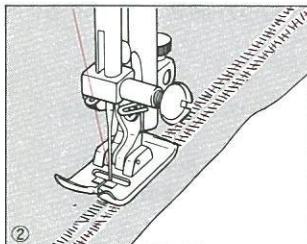


《縫い方》

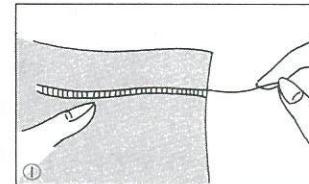
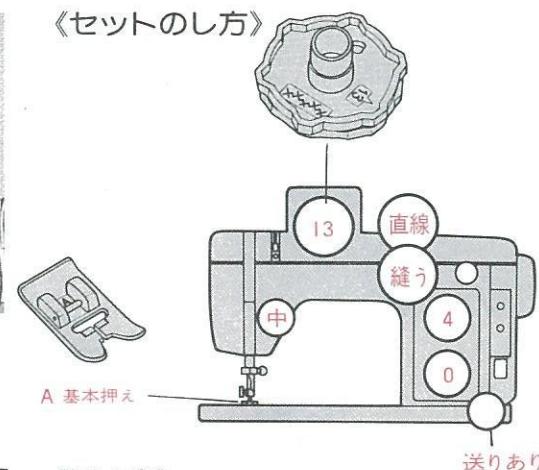
①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1~2本抜きとる。

②織り糸を抜いた上を縫う。

③ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとる。

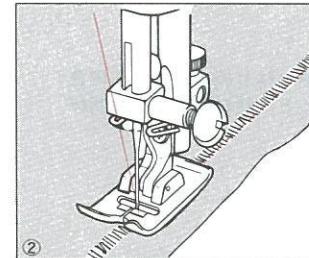


《セットのし方》

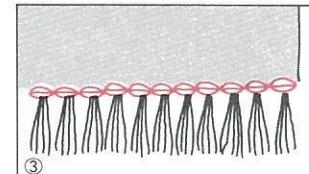


《縫い方》

①フリンジの^{なは}になる部分の織り糸を1~2本抜きとる。



②織り糸を抜いた上を縫う。



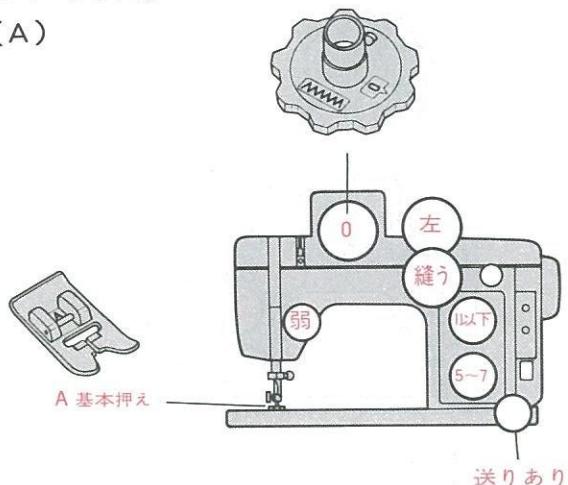
③フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作る。

●糸を使ったパリソジ

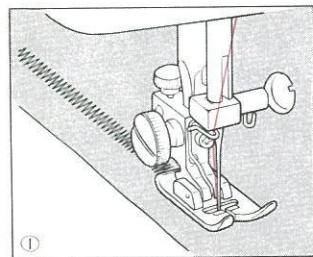
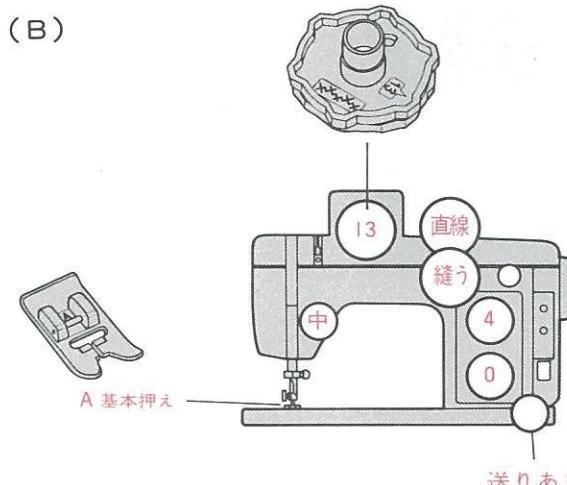


《セットのし方》

(A)



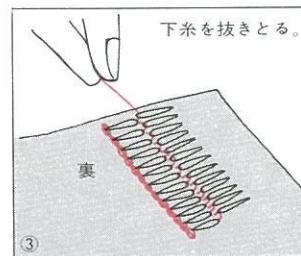
(B)



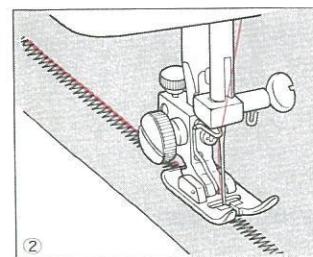
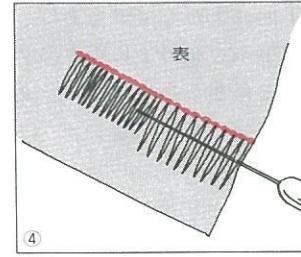
《縫い方》

①(A)にセットして縫う。

※上糸が布の裏にはぼ全部出るくらいに、
上糸調子を弱くしてください。



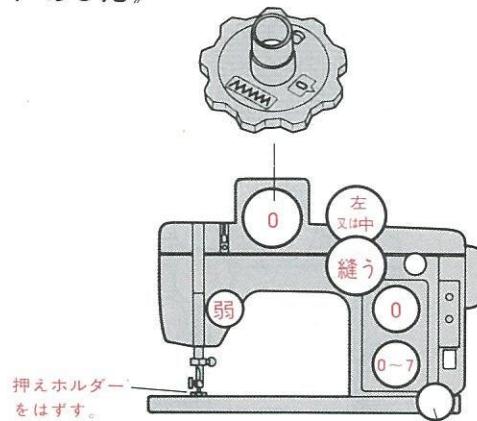
③ ①で縫った下糸を引いて抜きとる。

②(B)にセットして、①の縫い目の右端
を三重縫いする。④ 太い針か目ほどきの背で、上糸を布の
表に引きあげ、アイロンで仕上げる。

●ししゅう

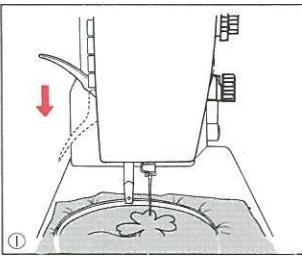


《セットのし方》

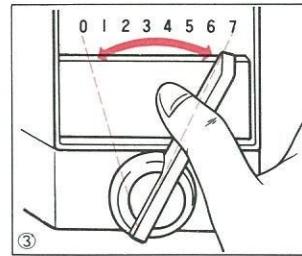


※押えホルダーのはずし方は、
13ページにあります。

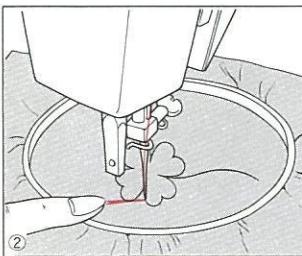
《縫い方》



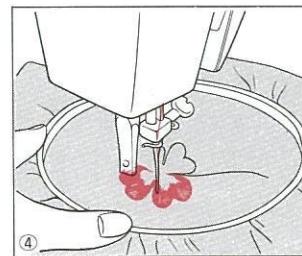
- ①振巾レバーを「0」にして、上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、抑え上げをおろす。



- ③④右手で振巾レバーを操作し、振巾をかえながら左手でししゅう枠を押え、図案にそって枠を動かす。



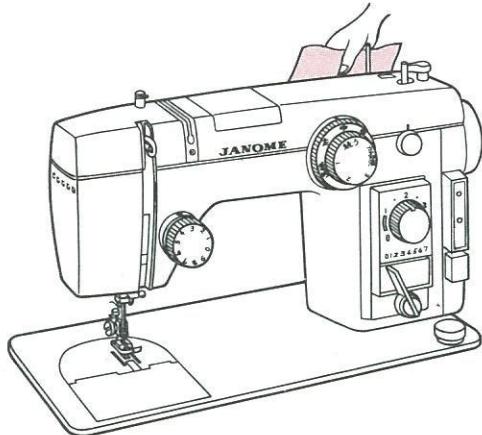
- ②はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて下糸を布の上に引き出す。左手の指先で上糸と下糸を押えて、止め縫いをし、余分な糸を切る。



※ししゅう枠にはめた布は、ぴんと張ってください。

使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも軽快に役立ててください。万一縫い調子がおもわしくない場合は、54ページを参照して調整してください。

●外装の手入れ

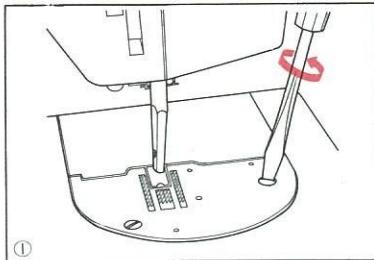


ほこりや油などの汚れは、水をつけず乾いたやわらかい布でふきとる。
ポータブルケースは中性洗剤などで軽くふきとる。

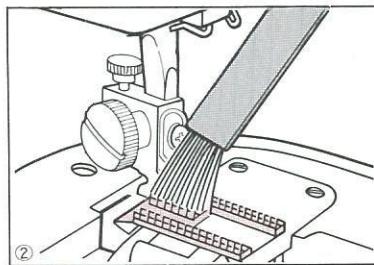
※シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対使用しないでください。

※ポータブルケースは直射日光、火気、熱などを避けてください。

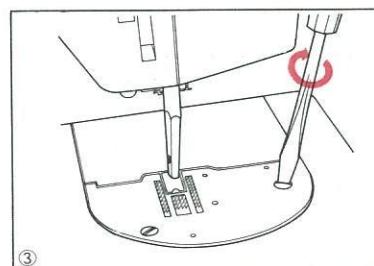
※手入れをするときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。



①押えと針をはずす。基線ダイヤルを「直線」にセットして、針板締めねじをゆるめ、針板をはずす。



②送り歯のごみをブラシで手前に落とす。



③針板締めねじで針板をしっかりとつける。

※送り歯の掃除をした後は、かまの手入れをしてください。

※送り歯の掃除のときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

●注油のし方

図の矢印の個所に注油をしますと、いつもミシンは軽く、静かに運転でき、ミシンがながもちします。

★《注油の時期》

一般家庭では一週間に1回程度、継続して使用するときは10時間に1回ぐらい。またしばらく使用しなかったときは、使う前に一通り注油してください。

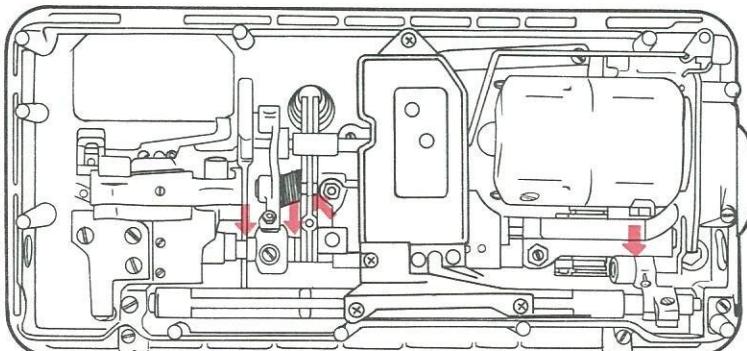
★《注油の方法》

矢印のところへ1～2滴注油する。注油後ミシンを1～2分ほど早く回転させて、よく油をしみこませる。

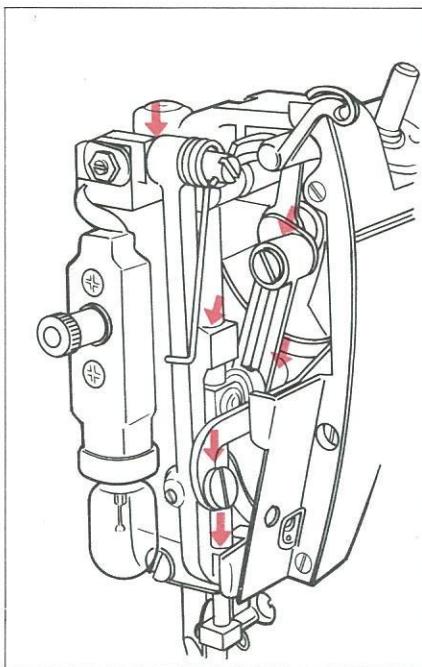
※油が多すぎるとボビンや糸が汚れたり、糸切れの原因となるため、ごく少量を注油してください。

※電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

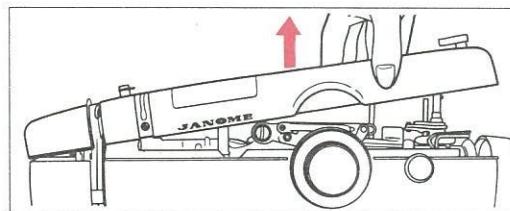
《ベット裏側の注油部分》



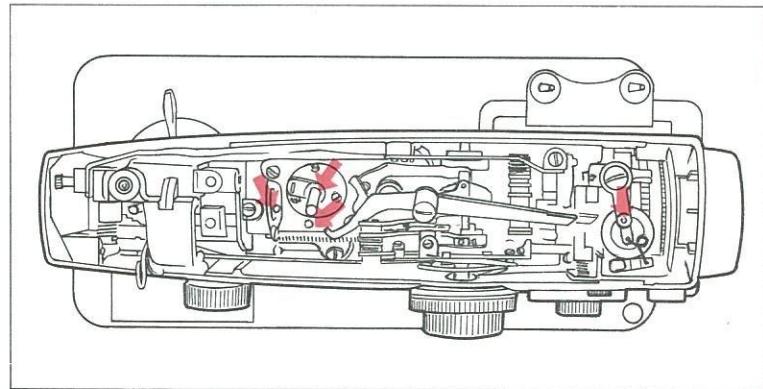
《面板のなかの注油部分》



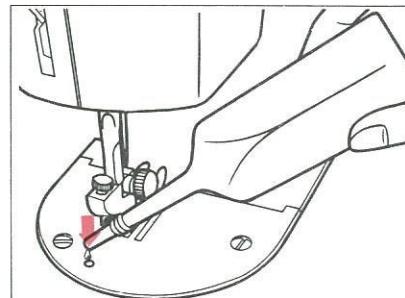
《天板のはずし方》



《天板のなかの注油部分》

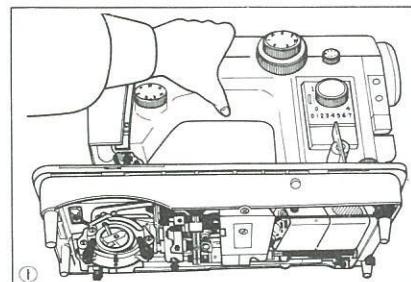


《針板の注油部分》

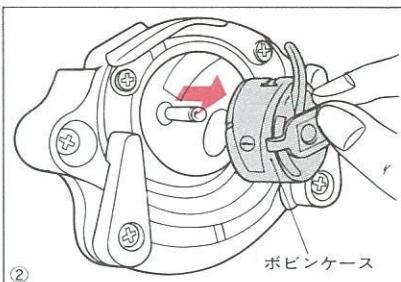


●かまの手入れ

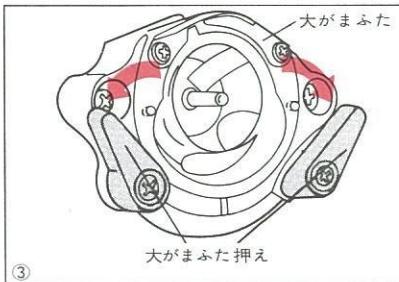
《かまの分解》



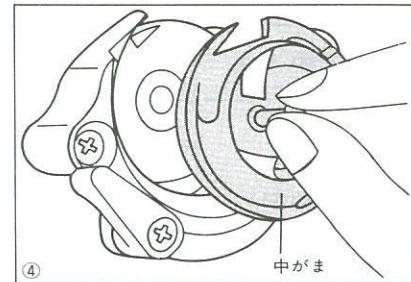
①針棒を最上部にし、頭部を向う側へたおす。



②ボビンケースを取り出す。

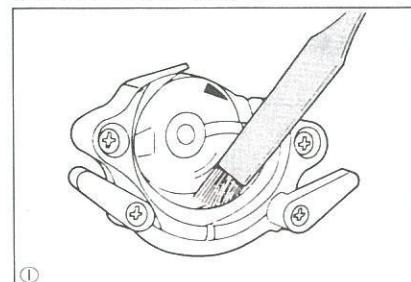


③大がまふた押えを左右にひらき、大がまふたをはずす。

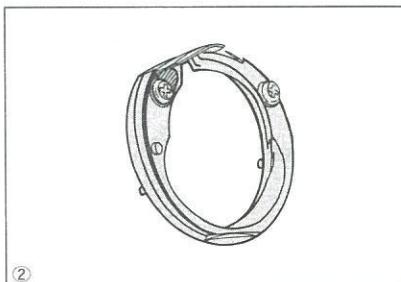


④中がまをはずす。

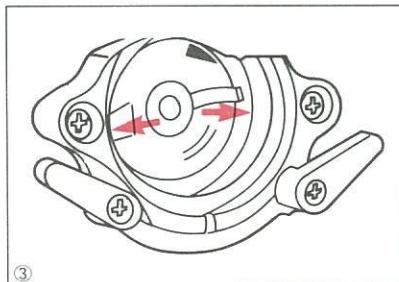
《かまの掃除・注油》



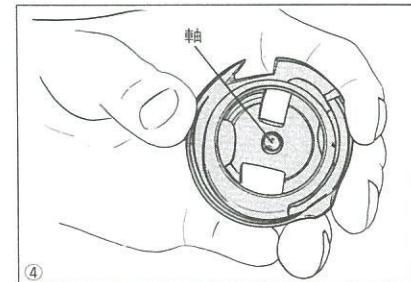
①大がまの内側をブラシで掃除する。



②大がまふた全体を油布でふきとる。

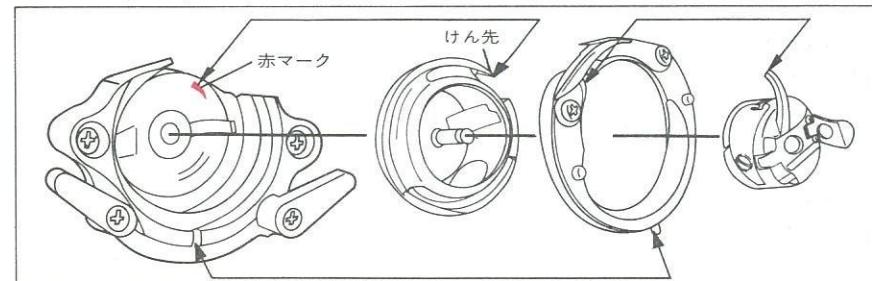


③矢印の部分にミシン油を1~2滴注油し、布切れで軽くふきとる。

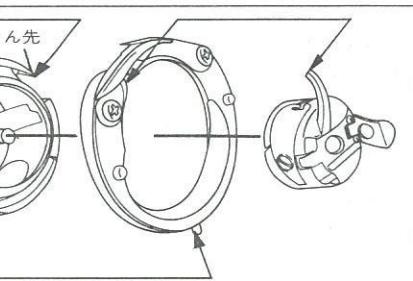


④中がま全体と軸を油布で軽くふきとる。

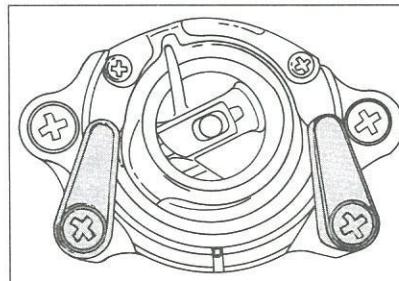
《かまの組立》



①赤マークに中がまのけん先を合わせてさしこむ。



②大がまふたの突起を大がまの穴に合わせてはめこむ。



③左右の大がまふた押えをとじ、最後にボビンケースをとりつける。

※油が多いと、ボビンや糸が汚れたり糸切れの原因となるため、ごく少量を注油してください。

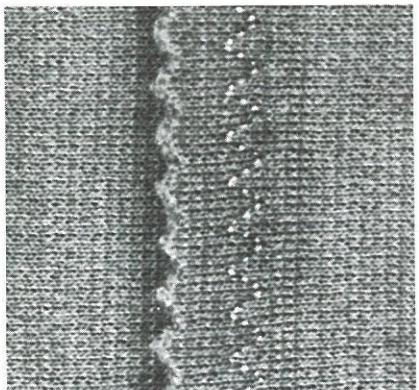
※ここに説明されているところ以外の個所を分解しないでください。

※電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方	調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
音が高い 回転が出ない	①油がきれている ②よくない油を使っている ③かまの部分に糸くずが巻きこまれている ④送り歯にごみがたまっている ⑤モーターが故障している ⑥制御回路が故障している	52ページ参照 ジャノメミシン油を 53ページ参照 51ページ参照 直営支店へご連絡を 直営支店へご連絡を	縫い目がとぶ	①針のつけ方がまちがっている ②針がまがっている ③布地に対して針と糸が合っていない ④伸縮性のある布の場合、化繊針を使っていない ⑤上糸の掛け方がまちがっている	15ページ参照 15ページ参照 15ページ参照 15ページ参照 18ページ参照
上糸が切れる	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている ②上糸調子が強すぎる ③針がまがっていたり、針先がつぶれている ④針のつけ方がまちがっている ⑤針板の針穴にきずがついている ⑥縫い終ったとき布を向う側へ引いていない ⑦糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる	18ページ参照 19ページ参照 15ページ参照 15ページ参照 直営支店へご連絡を 21ページ参照 15ページ参照	縫い目がしわ になる	①上糸または下糸の調子が強すぎる ②上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり糸が必要以外の部分にからみついている ③布にくらべて針が太すぎる ④布にくらべて縫い目があらすぎる ⑤直線縫いのとき、基線ダイヤルが「直線」になっていない ※特に薄物を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください	19ページ参照 17~19ページ参照 15ページ参照 縫い目を狭くする 20ページ参照
下糸が切れる	①ボビンケースに下糸の通し方がまちがっている ②ボビンケースの調子ばねを強くしめすぎている ③ボビンケースの中やばねの中に、ごみがたまっている	17ページ参照 19ページ参照 ボビンケースを掃除する	縫い目に輪ができる	①上糸調子が弱すぎる ②下糸調子が強すぎるか、弱すぎる ③糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる	19ページ参照 19ページ参照 15ページ参照
針が折れる	①針のつけ方がまちがっている ②針がまがっている ③針止めねじのしめつけがゆるんでいる ④上糸調子がとくに強すぎる ⑤縫い終ったとき、向こう側に布を引かなかつた ⑥布にくらべて針が細すぎる ⑦布に針がささっているときに、ダイヤルや振巾レバーなどを動かした ⑧2本針使用の場合、基線ダイヤルが「2本針」以外になっている	15ページ参照 15ページ参照 15ページ参照 19ページ参照 21ページ参照 15ページ参照 針をあげてから操作をする 39ページ参照	しつけがうまく 縫えない	①目とび——布をびんと張っていない	36ページ参照
			布送りがうまく くいかない	①送り歯のところに糸くずがたまっている ②縫い目が細かすぎる	51ページ参照 20, 22, 38ページ参照
			速度表示ランプがつかない	直営支店へご連絡を。 ※なお、速度表示ランプがつかない場合でもミシンが正常に動くときは直営支店の係員がうかがうまで、そのままご使用ください。	
			その他むづかしい調整や部品のとりかえは…ジャノメ直営支店へどうぞ！ ※ ジャノメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本にかれている方法で調整できないときは、どうぞ、ご遠慮なく、近くの支店へご連絡ください。 ※ お問い合わせの際はこの本をお読みになりながらお電話くださると、故障の原因や個所が確実に伝わります。 ※ お電話いただければ調整員がおうかがいいたしますから、必要以上に分解などなさらないでください。		

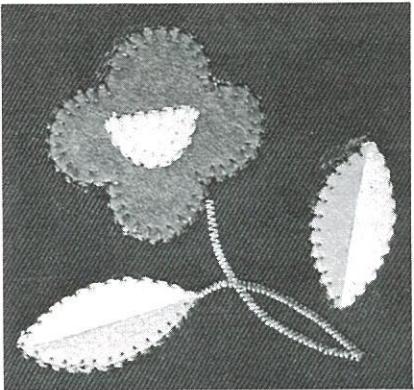
●スペシャルカムの応用縫い=姉妹品(別売)



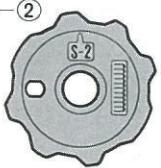
シリーズ1 S-①



三点ジグザグ縫い
ストレッチ縫い
飾りテープ縫い
ゴムシャーリング
コーディング
ファゴティング



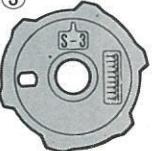
S-②



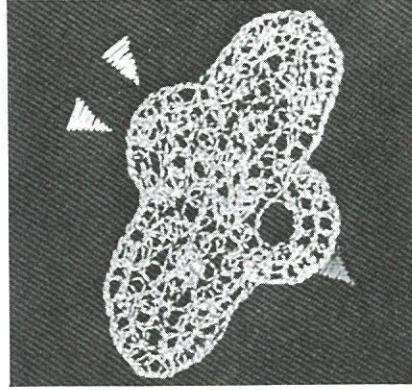
アップリケ
ドロンワーク
ヘムかがり
カットワーク



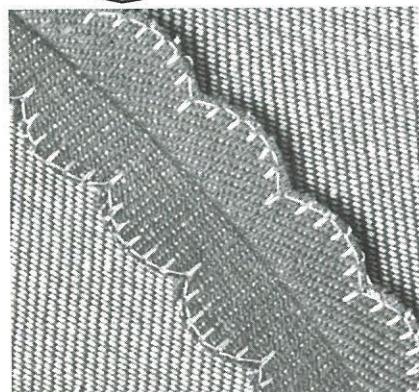
S-③



ピコ縫い
フリンジ縫い
カットワーク



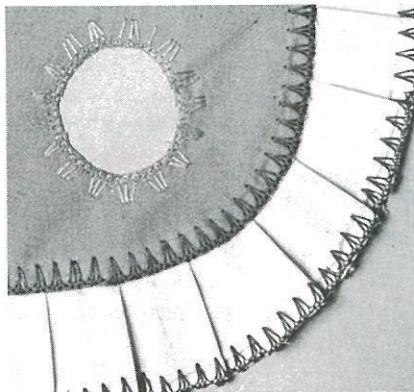
自動砂縫い
線模様縫い
ユニック変化縫い



シリーズ2 S-⑤



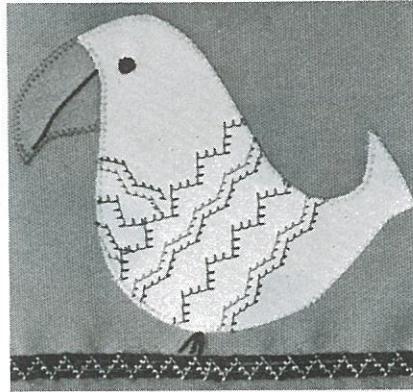
スカラップかがり
曲線裁ち目かがり
フラワー・アップリケ



S-⑥



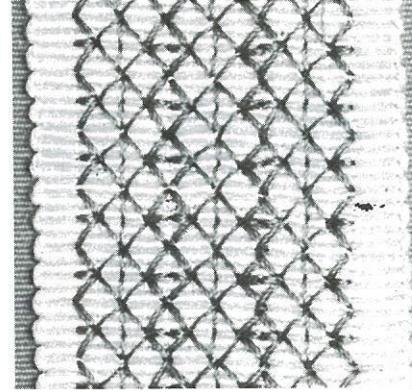
ブランケットステッチ
太い糸かがり
フリンジ縫い



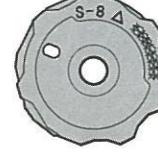
S-⑦



フェザーステッチ
三重縫い
パッチワーク



S-⑧



ダブルコーディング
ブレード縫い
ファゴティング
粒縫い
パッチワーク

●標準付属品

●姉妹品(別売)



目ほどき



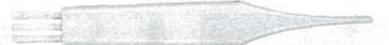
ねじまわし(大)



ねじまわし(小)



ミシン油



ミシンブラシ



ボビン



糸立て棒フェルト



針と針ケース

カセットするだけで文字が書ける 大きな……大きな……花模様縫い くるくるまわってお花がいっぱい

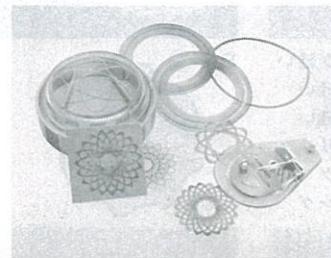
アルファベットステッチ オーバルステッチ フラワーステッチ

(花模様縫い)

ペンで描くように、すらすらと美しいアルファベット文字がししゅうできます。イニシャルや装飾文字にご活用ください。

6~7cmの大輪の花が、美しくしうできます。布ワクやステッチチャンネルを回すだけで、花びらがいろいろな形にかわります。

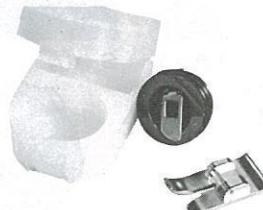
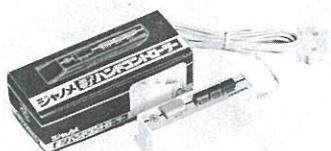
ステッチチャンネルを回すと、さまざまな四季の花が、あなたの作品に咲きみだれます。使い方もとても簡単…どなたでも楽しめます。



簡単にセットできる押ボタン式

ジャノメ電子ハンドコントローラー

縫いはじめも、縫いおわりも指でボタンを押すだけ。はやい、ふつう、ゆっくりの3段階のスピードを電子がコントロールします。



チェーンステッチセット

装飾縫いや仮縫いにピッタリのチェーンステッチ専用の押えとルーパーがセットになっています。

ホームソーイングをいつそう楽しくする姉妹品（別売）

ソフトカタン糸 ロー引きカタン糸



絹ししゅう糸12色



綿ししゅう糸12色



綿ししゅう糸12色
(カムししゅう用)



ボビンホルダー



化織用針



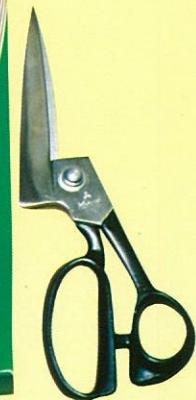
家庭用針



ミシン油



ジャノメ
コーズル
(家庭用裁縫鉄)



ジャノメ*フィット*パターン



洋裁をグーンとスピードアップ！
どなたにもやさしく縫えてピッタリフィット
すぐお役に立つ実用新案の実物大型紙

●スカート、ワンピースなどしゃれたセンスでサイズも豊富な服装パターンがたくさんそろっています。お好みのパターンで、ご家族みなさまのためにホームソーイングをお楽しみください。

ホームソーイングの手引書

パターン洋裁

